

保育科第一部

学科教育科目

保育科第一部の教育目標

保育科第一部は、建学の理念を学科教育の基本とし、教育目標を次のように定めている。

＜豊かな人間性を基盤とする質の高い保育者の養成＞

この目標を達成するため、次の二つを学科教育の方針としている。

豊かな情操や創造力を培い、円満な人格をめざし自己を高めるように努めること

子どもを理解し、子どもの心身の発達を援助する専門的能力を養うこと

当学科に学ぶ学生は、これらの方針に沿い勉学に励み、2年間の学生生活を通して

「保育とは何か」を理解すること

「保育者としての専門性」を身につけること

を追求し体得してもらいたい。

そのためには、保育に関する専門的知識と技能を修得するだけでなく、自己をみつめ自己を高めること、真理追求の姿勢を持ち主体的に学びとること、広い視野・教養・感性を養うことが必要である。

学修と就労の両立には、制約された時間の中でたゆまぬ日々の研鑽が求められる。ともに励まし支え合う人間関係を作り、苦楽を乗り越えた経験は、保育者の資質として生かされることであろう。

当学科においては、教育課程の中から所定の単位を修得することにより、次の免許・資格を取得できる。

幼稚園教諭二種免許

保育士資格

これらの免許・資格の取得にあたっては、社会的責任として子どもの側に立ったよき保育者となることが求められている。

そのため、学生はその資質の向上に努めなければならない。

卒業後の進路としては、保育所、保育所以外の児童福祉施設、幼稚園、各種企業など多方面にわたっている。

なお、当学科の教育課程の履修にあたっては、所定の条件があるので各自注意されたい。

平成 22 年度 (2010 年度) 入学者

カリキュラム年次配当表

保育科第一部 平成22年度（2010年度）入学者対象

授 業 区 分	授 業 科 目 の 名 称	授 業 方 法	単 位 数		幼 稚 園 教 諭 二 種 免 許	保 育 士 資 格	学 年 配 当 (<small>数字は週当たり授業時間</small>)				備 考	
			必 修	選 択			1 年		2 年			
							I	II	I	II		
学	音楽教育A	演習	1				2					
	音楽教育B	演習		1	◆	○		2				
	音楽教育C	演習		1		○			2			
	音楽教育D	演習		1		○				2		
	器楽A	演習		1	◆	●	2					
	器楽B	演習		1	◆	○		2				
	造形A	演習	1				2					
	造形B	演習		1	◆	○		2				
	幼児体育A	演習	1				2					
	幼児体育B	演習		1	◆	○		2				
科	算数	講義		2	◇						不開講	
	生活概論	講義		2	◇						不開講	
	小児保健A	講義		2		●	2					
	小児保健B	講義		2		●		2				
	小児保健実習	実習		1		●			2			
	小児栄養	演習		2		●			2		☆	
	精神保健	講義		2		●				2		
	家族援助論	講義		2		●				2		
	社会福祉	講義	2							2		
	社会福祉援助技術	演習		2		●				2	☆	
教	児童福祉	講義		2		●	2					
	教育原理	講義	2						2			
	保育原理ⅠA	講義	2				2					
	保育原理ⅠB	講義		2		●				2		
	保育原理Ⅱ	講義		2		○				2		
	養護原理Ⅰ	講義		2		●		2				
	養護原理Ⅱ	講義		2		○				2		
	教育実習	実習		5	◆			5				
	保育実習Ⅰ	実習		5		●	5					
	保育実習Ⅱ	実習		2		●				2		
育	保育実習Ⅲ	実習		2							不開講	
	教育心理学	講義		2	◇	●				2		
	発達心理学	講義	2				2					
	児童心理学	講義		2	◆	○		2				
	青年心理学	講義		2		○				2		
	臨床心理学	演習		2		○		2			☆	
	教育制度論	講義		2	◆					2		
	教師論	講義	2								2	
	保育課程総論	講義		2			2					
	目	保育内容・健康	演習		2	◆	●				2	☆
保育内容・人間関係		演習		2	◆	●		2			☆	
保育内容・環境		演習		2	◆	●			2		☆	
保育内容・言葉		演習		2	◆	●		2			☆	
保育内容・表現Ⅰ		演習		2	◆	●			2		☆	
保育内容・表現Ⅱ		演習		2	◆	●		2			☆	

カリキュラム年次配当表

保育科第一部 平成22年度（2010年度）入学者対象

授業科目の区分	授業科目の名称	授業方法	単位数		幼稚園教諭二種免許	保育士資格	学年配当(数字は週当たり授業時間)				備考
			必修	選択			1年		2年		
							I	II	I	II	
学科教育科目	保育方法論	講義		2	◆		2				
	養護内容	演習		1		●			2		
	乳児保育Ⅰ	演習		2		●	2				☆
	乳児保育Ⅱ	演習		2		○				2	☆
	障害児保育	演習		1		●		2			
	教育相談	講義		2	◆					2	
	保育・教職実践演習(幼稚園)	演習		2	◆	●					2

(注意)

- ◆印は、幼稚園教諭二種免許取得のための必須科目を表す。
- ◇印は、幼稚園教諭二種免許取得のための選択科目を表す。
- 印は、保育士資格取得のための必須科目を表す。
- 印は、保育士資格取得のための選択科目を表す。

※備考欄の☆は、学則第23条第1項第2号の但書に規定する授業科目を表す。

《学科教育科目》

科目名	音楽教育 A				
担当者名	吉良 武志				
授業方法	演習	単位・必選	1・必	開講年次・開講期	1年・I期

《授業のねらい及び概要》

子どもたちと一緒に歌ったり楽器を弾いたりして、音楽の楽しさを味わうことは、とても大切なことです。保育者にとって必要な音楽に関する基本的な知識の獲得や音楽的技能の養成を目標とします。ML（ミュージック・ラボラトリー）を利用したこどもの歌の弾き歌い練習をはじめ、アンサンブルの学習、ソルフェージュの指導、鑑賞などを通して音楽的資質を高め、さらに、楽譜の演奏にとどまらず、コードネームによる伴奏法や即興演奏能力も身につけることを期待します。また、鍵盤ハーモニカなどの簡易な楽器の奏法にも習熟し、子どもたちと一緒に音楽の楽しさを共有できる保育者を目指してほしいものです。

《授業の到達目標》

I期の授業では、実践的な音楽的技能の養成から取り組みます。

- 子どもたちの前で手遊び歌や指遊び歌をうまく歌え、表現できる。
- 子どもたちと一緒にピアノを弾きながらうまく歌える。
- コードネームによって子どもたちの歌に即興的な伴奏ができる。
- 子どもたちと鍵盤ハーモニカなどの簡易な楽器による合奏ができる。また、その指導ができる。
- 紙芝居やペープサート、人形劇などに音楽を効果的に使用できる。
- 音楽を用いた保育への導入に際して、子どもたちに興味のあるお話ができる。

《テキスト》

授業の中で、適宜紹介します。また、必要に応じてプリント教材を配布します。

《参考文献》

授業の中で、適宜紹介します。図書館等で一読されることを望みます。

《成績評価の方法》

グループ発表やピアノの弾き歌い発表の内容（50%）、授業のまとめやレポート等の提出物（30%）、そして、実技を伴った授業内容ですので、出席状況等に見られる学習に取り組む姿勢（20%）で評価します。

《授業時間外学習》

音楽に関わる基本的な技能の上達には、毎日の反復練習と各自の熱意がとても大切です。何よりも音楽を楽しみ、より高い音楽的能力を身につけるよう学習に励むことを期待します。多くのこどもの歌に触れ、弾き歌い曲や得意な曲のレパートリーを増やしましょう。

《備考》

- ・ 単に知識を得ることにとどまらず、実際に歌い、演奏し、動くことを通して、どのようにして子どもたちと音楽の楽しい感動体験を共有すればいいのか学びましょう。
- ・ MLを利用した弾き歌いの練習の際には、演奏技能とともに、表情豊かな演奏やソルフェージュ力の向上なども目指しましょう。
- ・ 学習内容の進捗状況により、授業計画が前後する場合があります。
- ・ 楽器などの取り扱いには細心の注意を払い、また、清潔にするよう心がけましょう。
- ・ 繰り返しますが、毎日の練習がとても大切です。長期休暇中も学習に励んで下さい。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	受講に際して、本授業の内容や留意点、準備物などの徹底。グループ分け作業。（音楽劇等の発表を予告）保育における音楽活動の意義。保育への導入としての手遊び歌（指遊び歌を含む）、一例を紹介、練習。
第 2 週	手遊び歌の教育的重要性を認識しながら、いくつかの歌を紹介し、練習する。（ピアノ伴奏練習も含む）
第 3 週	先週の手遊び歌に加え、数曲練習。新たな曲の創作。（この段階では歌詞及び動きの創作）春にちなんだ歌を練習。
第 4 週	2週にわたって学習した手遊び歌、それらの歌唱、動き、ピアノ伴奏をより確実なものに仕上げる。
第 5 週	模擬保育（ロールプレイ）を想定して、手遊び歌の歌唱、動き、ピアノ伴奏を練習し、指導案を考える。
第 6 週	手遊び歌（創作曲）による模擬保育（ロールプレイ）を各自、発表。その後、それぞれ全員でのディスカッション。
第 7 週	各自が発表した手遊び歌に限らず、これまでに接した多くの曲を、将来の実習に備え、練習しまとめる。
第 8 週	お話と音楽。音楽活動への導入としてのお話。（興味付け）既存の「音楽人形劇」（数分）に対してのお話を創作。
第 9 週	コードネームによるピアノ伴奏の概説。初歩的な和音のコードネームを理解する。各自の音楽経験に合わせた練習。
第 10 週	コードネームによるピアノ伴奏法。ハ長調の2コード（トントントン、じゃんけん遊び、あく手でこんにちには他）
第 11 週	コードネームによるピアノ伴奏法。ト長調の2コード（ふしぎなポケット、山小屋一軒、糸まきまき、かつこう他）
第 12 週	こどもの遊びと音楽。こどもの音遊び（ソルフェージュ）へのリズムとメロディ模唱の練習。夏にちなんだ歌を練習。
第 13 週	こどもの楽器遊び。楽器との出会い、手遊び歌から楽器遊びへ。鍵盤ハーモニカの指導。（メロディー模奏）
第 14 週	第1週に課したグループによる音楽を用いた紙芝居、ペープサートなどの発表内容を仕上げ、その実施計画案を作成。
第 15 週	各グループによる発表。その後、それぞれ全員でのディスカッション。 総まとめ（小レポートの作成）

《学科教育科目》

科目名	音楽教育B				
担当者名	吉良 武志				
授業方法	演習	単位・必選	1・選	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

子どもたちと一緒に歌ったり楽器を弾いたりして、音楽の楽しさを味わうことは、とても大切なことです。保育者にとって必要な音楽に関する基本的な知識の獲得や音楽的技能の養成を目標とします。ML（ミュージック・ラボラトリー）を利用したこどもの歌の弾き歌い練習をはじめ、アンサンブルの学習、ソルフェージュの指導、鑑賞などを通して音楽的資質を高め、さらに、楽譜の演奏にとどまらず、コードネームによる伴奏法や即興演奏能力も身につけることを期待します。また、鍵盤ハーモニカなどの簡易な楽器の奏法にも習熟し、子どもたちと一緒に音楽の楽しさを共有できる保育者を目指してほしいものです。

《授業の到達目標》

I 期に続き保育の場に必要な音楽的技能のより高度な訓練に取り組み、さらに、音楽の基本的な理論、音楽指導の方法論にも触れます。また、こどもの歌をできるだけ多く覚え、いつでもピアノの弾き歌いができるようにするのも、この授業の重要な目標です。

- 子どもたちの前で手遊び歌や指遊び歌をうまく歌え、表現でき、また創作できる。
- 多くのこどもの歌を覚え、ピアノの弾き歌いがうまくできる。コードネームによって子どもたちの歌に即興的な伴奏ができる。
- 子どもたちと鍵盤ハーモニカなどの簡易な楽器による合奏ができる。また、その指導ができる。
- 紙芝居やペープサート、人形劇などに音楽を効果的に使用できる。
- 音楽を用いた保育への導入に際して、子どもたちに興味のあるお話ができる。
- 保育における音楽のもつ役割を説明できる。

《テキスト》

授業の中で、適宜紹介します。また、必要に応じてプリント教材を配布します。

《参考文献》

授業の中で、適宜紹介します。図書館等で一読されることを望みます。

《成績評価の方法》

グループ発表やピアノの弾き歌い発表の内容（50%）、授業のまとめやレポート等の提出物（30%）、そして、実技を伴った授業内容ですので、出席状況等に見られる学習に取り組む姿勢（20%）で評価します。

《授業時間外学習》

音楽に関わる基本的な技能の上達には、毎日の反復練習と各自の熱意がとても大切です。何よりも音楽を楽しみ、より高い音楽的能力を身につけるよう学習に励むことを期待します。多くのこどもの歌に触れ、弾き歌い曲や得意な曲のレパートリーを増やしましょう。

《備考》

- ・ 単に知識を得ることにとどまらず、実際に歌い、演奏し、動くことを通して、どのようにして子どもたちと音楽の楽しい感動体験を共有すればいいのか学びましょう。また、毎日の練習がとても大切です。長期休暇中も学習に励んで下さい。
- ・ MLを利用した弾き歌いの練習の際には、演奏技能とともに、表情豊かな演奏やソルフェージュ力の向上なども目指しましょう。
- ・ 学習内容の進捗状況により、授業計画が前後する場合があります。
- ・ 楽器などの取り扱いには細心の注意を払い、また、清潔にするよう心がけましょう。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	Ⅱ期の受講に際して内容や留意点、準備物などの徹底。グループ分け確認。（Ⅰ期に続き音楽劇等の発表を予告）保育の場における音楽活動の意義をあらためて認識し、Ⅰ期の学習内容を復習する。秋にちなんだ歌をあげ考察する。
第 2 週	Ⅰ期で学習した音楽の基礎を深める。（少し複雑な二長調や変ロ長調などの理解）秋の行事にちなんだ歌を練習(1)
第 3 週	ピアノ伴奏に備え、音楽の基礎を深める。（少し複雑なコードネームなどの理解）秋の行事にちなんだ歌を練習(2)
第 4 週	コードネームによるピアノ伴奏法。ハ長調の3コード（おべんとう、すうじのうた、森の音楽会、しりとりうた他）
第 5 週	こどもの楽器遊び。さまざまな楽器の種類と奏法を理解。鍵盤ハーモニカの指導。（和音の演奏とアンサンブル）
第 6 週	模擬保育（ロールプレイ）を想定して、鍵盤ハーモニカをはじめさまざまな楽器を練習し、指導案を考える。
第 7 週	楽器を使った模擬保育（ロールプレイ）を各自、発表。その後、それぞれ全員でのディスカッション。
第 8 週	幼児音楽教育の変遷(1) 唱歌遊戯から童謡の誕生を概観する。歌い継がれた多くの文部省唱歌、童謡を取り上げる。
第 9 週	幼児音楽教育の変遷(2) 音楽リズムから保育内容領域「表現」の誕生を概観する。今日のこどもの歌を考察する。
第10週	コードネームによるピアノ伴奏法。ヘ長調の2コード（10人のインディアン、気のいいあひる、小さな庭他）
第11週	こどもの器楽合奏。さまざまな楽器を使った合奏の練習と指導法を考察する。クリスマスにちなんだ曲も取り上げる。
第12週	コードネームによるピアノ伴奏法。ト長調、ヘ長調の3コード（一年生になったら、山の音楽家、アルプス一万尺他）
第13週	お話と音楽。お話の中での音楽。（劇遊び） ミュージカルの世界を取り上げる。冬にちなんだ歌を練習。
第14週	第1週に課したグループによる音楽を用いた紙芝居、ペープサートなどの発表内容を仕上げ、その実施計画案を作成。
第15週	各グループによる発表。その後、それぞれ全員でのディスカッション。 総まとめ（小レポートの作成）

《学科教育科目》

科目名	器楽A				
担当者名	大串 和久・他				
授業方法	演習	単位・必選	1・選	開講年次・開講期	1年・I期

《授業のねらい及び概要》

保育者として望ましい姿勢を保ちつつ保育現場における応用力を身につけるための基礎技能を学びます。具体的には現場ですぐに役立つピアノとして「コード伴奏による弾き歌い」を簡易な段階から開始し、個々の到達度に合わせて個人レッスンと少人数のグループレッスンを適宜おこなって進めていきます。

《授業の到達目標》

- コードネームを理解し、記されたコードネームを見ただけで容易に伴奏付けができる。
- 容易に伴奏付けができることによって歌うことにも集中し、楽曲をのびのびと弾き歌いできる。
- テキストの基礎編の中から指定された曲を全て弾き歌いできる。

《テキスト》

『うたのメルヘン』伊藤嘉子・中島龍一 編著（共同音楽出版社）
 『すいかとかぼちゃのロックンロール』伊藤嘉子・中島龍一 編著（共同音楽出版社）

《参考文献》

資料等は、必要に応じて配布する。

《成績評価の方法》

1. 欠席が 1/3 を超えたものは発表演奏資格なし。
2. 毎回の授業において指定曲を 1 曲クリアし、I 期においての最終段階(基礎編)が修了していること。
3. 研究発表会(グランドピアノによる個人発表演奏)において規定の課題(1 か月前に指示) ができていること。
4. 授業態度が真面目であること。
5. 受講進捗度がきちんと整理されて記入してあること。
6. 実技試験 (60%=研究発表会) と授業点 (40%=上記 1～5 及び備考 1～4) の総合評価。

《授業時間外学習》

- ・予習
毎回、次の授業に向けての課題を指示しますから必要に応じて各自で練習してください。
- ・復習
毎回授業で扱ってきた曲を授業中に復習することにより着実にレパートリーを増やしていきます。授業中だけで復習の時間が不足と感じた時は個々で必要に応じて練習室や自宅等で練習してください。

《備考》

1. 遅刻・早退は 20 分まで出席扱い（当該日の授業点を減点）とします。やむを得ず 20 分を超えそうな時は出席扱いとはなりません。授業内容が毎回つながりを持ちますので、そのような時でも必ず出席してください。
2. 身だしなみとエチケット（つめ・髪・服装・靴等の清潔感）を心がけてください。
3. 毎回受講進捗表に必要事項を記入し指導者から必ずサインをもらってください。
4. 講義室の使用上の注意事項を厳守し、授業終了時には次の使用者のために清潔を心がけてください。特に室内は飲食厳禁はもちろんこと、携帯電話の使用も厳禁（発覚の際は当該日の授業点を減点）です。

《授業計画》

週	授 業 計 画	
第 1 週	『器楽A』における授業内容の説明。指導者の紹介と個々の進捗調査及び個人指導。	
第 2 週	学生一人一人の鍵盤演奏能力を考慮した個人指導。 「うたのメルヘン」から かえるの合唱 メリーさんのひつじ 他	
第 3 週	学生一人一人の鍵盤演奏能力を考慮した個人指導。 「うたのメルヘン」から かたつむり 他	
第 4 週	学生一人一人の鍵盤演奏能力を考慮した個人指導。 「うたのメルヘン」から きらきらぼし 他	
第 5 週	学生一人一人の鍵盤演奏能力を考慮した個人指導。 「うたのメルヘン」から やきいもグーチーパー 他	
第 6 週	学生一人一人の鍵盤演奏能力を考慮した個人指導。 「うたのメルヘン」から とんぼのめがね 他	
第 7 週	学生一人一人の鍵盤演奏能力を考慮した個人指導。 「うたのメルヘン」から ぶんぶんぶん 他	
第 8 週	学生一人一人の鍵盤演奏能力を考慮した個人指導。 「うたのメルヘン」から ちょうちょう 他	
第 9 週	学生一人一人の鍵盤演奏能力を考慮した個人指導。 「うたのメルヘン」から ゆき 他	
第 10 週	学生一人一人の鍵盤演奏能力を考慮した個人指導。 「うたのメルヘン」から チューリップ 他	
第 11 週	学生一人一人の鍵盤演奏能力を考慮した個人指導。 「うたのメルヘン」から うみ 他	
第 12 週	学生一人一人の鍵盤演奏能力を考慮した個人指導。 「うたのメルヘン」から こいのぼり 他	
第 13 週	学生一人一人の鍵盤演奏能力を考慮した個人指導。 「うたのメルヘン」から研究発表時の課題曲	※未履修曲の点検
第 14 週	「うたのメルヘン」から 研究発表会のための予備練習と不足部分を補い個人指導を行う。	※未履修曲の点検
第 15 週	「うたのメルヘン」から 研究発表会	

《学科教育科目》

科目名	器楽B				
担当者名	大串 和久・他				
授業方法	演習	単位・必選	1・選	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

保育者として望ましい姿勢を保ちつつ保育現場における応用力を身につけるための基礎技能を学びます。具体的には現場ですぐに役立つピアノとして「コード伴奏による弾き歌い」を簡易な段階から開始し、個々の到達度に合わせて個人レッスンと少人数のグループレッスンを適宜おこなって進めていきます。

《授業の到達目標》

- コードネームを理解し、記されたコードネームを見ただけで容易に伴奏付けができる。
- 容易に伴奏付けができることによって歌うことにも集中し、楽曲をのびのびと弾き歌いできる。
- テキストの基礎編と実践編の中の曲を個々の到達レベルに応じて弾き歌いできる。

《テキスト》

『うたのメルヘン』伊藤嘉子・中島龍一 編著（共同音楽出版社）
 『すいかとかぼちゃのロックンロール』伊藤嘉子・中島龍一 編著（共同音楽出版社）

《参考文献》

資料等は、必要に応じて配布する。

《成績評価の方法》

1. 欠席が 1/3 を超えたものは発表演奏資格なし。
2. 毎回の授業において指定曲を 1 曲クリアし、Ⅱ期においての最終段階(実践編)が修了していること。
3. 研究発表会(グランドピアノによる個人発表演奏)において規定の課題(1 か月前に指示) ができていること。
4. 授業態度が真面目であること。
5. 受講進捗度がきちんと整理されて記入してあること。
6. 実技試験 (60%=研究発表会) と授業点 (40%=上記 1～5 及び備考 1～4) の総合評価。

《授業時間外学習》

- ・予習
毎回、次の授業に向けての課題を指示しますから必要に応じて各自で練習してください。
- ・復習
毎回授業で扱ってきた曲を授業中に復習することにより着実にレパートリーを増やしていきます。授業中だけで復習の時間が不足と感じた時は個々で必要に応じて練習室や自宅等で練習してください。

《備考》

1. 遅刻・早退は 20 分まで出席扱い（当該日の授業点を減点）とします。やむを得ず 20 分を超えそうな時は出席扱いとはなりません。授業内容が毎回つながりを持ちますので、そのような時でも必ず出席してください。
2. 身だしなみとエチケット（つめ・髪・服装・靴等の清潔感）を心がけてください。
3. 毎回受講進捗表に必要事項を記入し指導者から必ずサインをもらってください。
4. 講義室の使用上の注意事項を厳守し、授業終了時には次の使用者のために清潔を心がけてください。特に室内は飲食厳禁はもちろんこと、携帯電話の使用も厳禁（発覚の際は当該日の授業点を減点）です。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	『器楽 B』における授業内容の説明。指導者の紹介と個々の進捗調査及び個人指導。次回の指定曲を決定。Ⅰ期に基礎編で扱わなかった曲は必ず優先し、さらに実践編の中から選曲する。
第 2 週	「うたのメルヘン」「すいかとかぼちゃのロックンロール」より個々の進捗に応じた子どもの歌弾きうたい個人指導 (1)
第 3 週	「うたのメルヘン」「すいかとかぼちゃのロックンロール」より個々の進捗に応じた子どもの歌弾きうたい個人指導 (2)
第 4 週	「うたのメルヘン」「すいかとかぼちゃのロックンロール」より個々の進捗に応じた子どもの歌弾きうたい個人指導 (3)
第 5 週	「うたのメルヘン」「すいかとかぼちゃのロックンロール」より個々の進捗に応じた子どもの歌弾きうたい個人指導 (4)
第 6 週	「うたのメルヘン」「すいかとかぼちゃのロックンロール」より個々の進捗に応じた子どもの歌弾きうたい個人指導 (5)
第 7 週	「うたのメルヘン」「すいかとかぼちゃのロックンロール」より個々の進捗に応じた子どもの歌弾きうたい個人指導 (6)
第 8 週	「うたのメルヘン」「すいかとかぼちゃのロックンロール」より個々の進捗に応じた子どもの歌弾きうたい個人指導 (7)
第 9 週	「うたのメルヘン」「すいかとかぼちゃのロックンロール」より個々の進捗に応じた子どもの歌弾きうたい個人指導 (8)
第 10 週	「うたのメルヘン」「すいかとかぼちゃのロックンロール」より個々の進捗に応じた子どもの歌弾きうたい個人指導 (9)
第 11 週	「うたのメルヘン」「すいかとかぼちゃのロックンロール」より個々の進捗に応じた子どもの歌弾きうたい個人指導 (10)
第 12 週	「うたのメルヘン」「すいかとかぼちゃのロックンロール」より個々の進捗に応じた子どもの歌弾きうたい個人指導 (11)
第 13 週	学生一人一人の鍵盤演奏能力を考慮した個人指導。 「うたのメルヘン」「すいかとかぼちゃのロックンロール」から研究発表時の課題曲 ※未履修曲の点検
第 14 週	「うたのメルヘン」「すいかとかぼちゃのロックンロール」から研究発表会のための予備練習と不足部分を補い個人指導を行う。 ※未履修曲の点検
第 15 週	「うたのメルヘン」「すいかとかぼちゃのロックンロール」から研究発表会

《学科教育科目》

科目名	造形A				
担当者名	岩見 健二				
授業方法	演習	単位・必選	1・必	開講年次・開講期	1年・I期

《授業のねらい及び概要》

子どもが絵を描きものを創るという行為は、とりもなおさず[心]を造形することであり、成長過程の中で重要な位置を占めている。子どもの[心]を的確に受け止め、生き生きと創作活動に打ち込めるようにするには、まず保育者自身が豊かな感性を持たなければならない。その為にも保育者が創作体験を持っていることが大切な要素になる。楽しく創作体験を重ねることで、材料経験を豊富にし、感覚を磨いてほしい。

《授業の到達目標》

自らの感性を磨くことにより、子どもの[心]を的確に受け止め、感性豊かな子どもを育てることが出来る。

《テキスト》

『色彩』色彩編集委員会（日本色研事業）

《参考文献》

適宜指示する。

《成績評価の方法》

- ・ 授業には、10回以上の出席を持って成績評価の対象とする。
- ・ 作品評価（100%）

《授業時間外学習》

毎回の授業で得られた造形体験を各自発展させ、主体的に多くの作品を創作してほしい。

《備考》

特になし

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	オリエンテーション
第 2 週	クロッキー
第 3 週	鉛筆デッサン
第 4 週	鉛筆デッサン
第 5 週	鉛筆デッサン
第 6 週	水彩画（静物）
第 7 週	水彩画（静物）
第 8 週	水彩画（静物）
第 9 週	色彩指導
第 10 週	色面構成
第 11 週	色面構成
第 12 週	色面構成
第 13 週	色面構成
第 14 週	色面構成
第 15 週	子供の絵の見方

《学科教育科目》

科目名	造形A				
担当者名	山下 彰一				
授業方法	演習	単位・必選	1・必	開講年次・開講期	1年・I期

《授業のねらい及び概要》

造形活動を通して創造する楽しさを身につける。

《授業の到達目標》

幼児はすばらしい感性を持ち、活動的です。その個々の創造性を伸ばすには、まず保育者が、自ら身近にある事物をよく観察し、そして描き、創る、ことが大切である。そのために多くの創作体験をもつことにより豊かな感性と、創造力を養うべきです。

《テキスト》

入学時に提示します。

《参考文献》

授業中に適宜紹介する。

《成績評価の方法》

- ・授業には、10回以上の出席をもって成績評価の対象とする。
- ・提出作品（70%）と出席状況（30%）の総合評価

《授業時間外学習》

演習科目は、授業時間だけで済むものではない。授業時間外においても作品制作に取り組む姿勢が欲しい。

《備考》

- ・作品の提出期限の厳守
- ・スケッチブック（F6）を毎授業時に持参すること。
- ・その他 水彩道具一式、カッターナイフ、色鉛筆、定規、フェキノリ、ハサミを準備すること。次回持参するものを提示します。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	オリエンテーション
第 2 週	鉛筆デッサン 1
第 3 週	鉛筆デッサン 2
第 4 週	鉛筆デッサン 3
第 5 週	クロッキー
第 6 週	水彩画（静物） 1
第 7 週	水彩画（静物） 2
第 8 週	水彩画（静物） 3
第 9 週	色彩指導
第 10 週	色面構成 1
第 11 週	色面構成 2
第 12 週	色面構成 3
第 13 週	色面構成 4
第 14 週	色面構成 5
第 15 週	色面構成 6

《学科教育科目》

科目名	造形A				
担当者名	柳楽 節子				
授業方法	演習	単位・必選	1・必	開講年次・開講期	1年・I期

《授業のねらい及び概要》

楽しい造形遊びを園児たちに伝えるには、保育者自身が造形の楽しさを知ることが必要である。この演習授業では、造形の基礎となる描写力、色彩の知識、構成力を、楽しみながら養えるよう、授業を進めていく。眼と手と頭、体全体を使って、受講生が造形の面白さを発見する力を養うことを目標とする。

《授業の到達目標》

- * 自分の好きな色、形、絵本、物語等について説明することができる。
- * 課題に対して手順よく作業を進めることができる。
- * 造形の分野で得意と思う内容を挙げるができる。

《テキスト》

『色彩』色彩編集委員会（日本色研事業）

《参考文献》

なし

《成績評価の方法》

- ・ 作品提出100%で成績評価を行う。
- ・ 授業には10回以上の出席をもって成績評価の対象とする。

《授業時間外学習》

- ・ 各授業時に、必要な事前準備及び授業後の補足作業について指示を行う。

《備考》

- ・ 事前に連絡された、授業の準備物は必ず持参すること。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	担当教員自己紹介 受講学生の自己紹介作品提出
第 2 週	描写 植物
第 3 週	描写 静物
第 4 週	描写 人物
第 5 週	描写 着彩
第 6 週	描写 着彩
第 7 週	色彩の知識
第 8 週	色彩構成 1
第 9 週	色彩構成 2
第 10 週	色彩構成 3
第 11 週	色彩構成 4
第 12 週	色彩構成 5
第 13 週	描写・色彩構成作品による立体作品制作
第 14 週	描写・色彩構成作品による立体作品制作
第 15 週	作品提出及びまとめ

《学科教育科目》

科目名	造形A				
担当者名	満田 知美				
授業方法	演習	単位・必選	1・必	開講年次・開講期	1年・I期

《授業のねらい及び概要》

保育現場での造形遊び（お絵描き遊び）で生かせる基礎（描写、色彩、色彩構成）や道具の扱い方を学びます。お絵描きあそびは、画用紙や絵具を使い好きなように表現します。材料や道具に十分に馴れることで子供たちは、自然に想像や空想をひろげ、それを絵や工作に表したくなってしまいます。世界でたった一つのもので、自分の力だけでつくる。言葉でいいあわせない気持ちを、存分に出すことができます。まずは、小さな思いをコンセプトに、小さな作品から制作します。子供の五感や想像力を育む素材やアイデアを提案します。

《授業の到達目標》

- 鉛筆を使いこなし自由に表現できるようになる。
- 色と形を楽しみ、大胆さや繊細など幅広く表現できるようになる。
- 素材や道具の特徴や特性を学び使いこなす。

《テキスト》

『色彩』色彩編集委員会（日本色研事業）
毎時間ごとにシラバスと参考資料を配布します。

《参考文献》

お絵描きあそび アトリエ・リュミエール 鈴木あきこ（主婦の友）

《成績評価の方法》

- ・授業出席（10回以上の出席をもって成績評価の対象とする）20％・全課題作品の提出50％・試験30％

《授業時間外学習》

- ・予習の方法／毎回、使用する素材や材料、道具を日頃から研究、収集する。
- ・復習の方法／授業内容を再確認し、不明な点は質問したり自分で調べたりしてください。

《備考》

遅刻について／授業のはじめに出席をとります。その後、毎時間ごとのシラバスと参考資料の説明に入ります。上記の説明を聞き損ねた場合は遅刻扱いとします。

持物について／筆記用具、スケッチブック、色鉛筆、クレパス、水彩道具一式（絵具 筆 筆洗 パレット 台拭き）油性ペン水性ペン（各色）、ハサミ、カッター、フェキのり、スタンプ台 ※詳しくは、オリエンテーション時に説明します。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	オリエンテーション アンケート（造形あそびをする上での不安事項） 鉛筆基礎①ドリル（鉛筆の持ち方）
第 2 週	鉛筆基礎② ドリル（線の練習、消しゴム）
第 3 週	鉛筆基礎③ ドリル（立体感 マチエール、線画）
第 4 週	鉛筆基礎④ ドリル（グラデーション、遠近の仕組み、輪郭線）
第 5 週	色と形を楽しもう① こすりだし&まる、さんかく、しかくでお絵描き（エリックカール技法、エンバリーおじさん技法）
第 6 週	色と形を楽しもう② 3原色でリアルな野菜を描こう
第 7 週	色と形を楽しもう③ 村のチェロ弾き★コーヒーの香り ～子供の物語性を引き出す想像の世界～
第 8 週	スタンプ遊び① 指紋スタンプで描いてみよう
第 9 週	スタンプ遊び② キャラクター制作（時間があればストラップ制作）
第 10 週	スタンプ遊び③ 共同制作とストーリー展開（班毎）
第 11 週	きってやぶいてよーくみて① いちごがいっぱい！何にみえるかな！
第 12 週	きってやぶいてよーくみて② 巨大クッキング ～焼そば
第 13 週	重ねてコラージュ① 水きりえ ～水でぬらした小筆で色刷り新聞紙を切って貼る。
第 14 週	重ねてコラージュ② 紙ビーズのアクセサリ
第 15 週	授業計画を作ろう

《学科教育科目》

科目名	造形B				
担当者名	岩見 健二				
授業方法	演習	単位・必選	1・選	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

とらわれない心を持つ幼児の表現を理解するには、自らも豊かな感性を磨かなければならない。身近な材料を駆使し、既成概念にとらわれない斬新な作品を制作してほしい。

《授業の到達目標》

自らの感性を磨くことにより、子供の[心]を的確に受け止め、感性豊かな子どもを育てることが出来る。

《テキスト》

無し。

《参考文献》

適宜紹介。

《成績評価の方法》

- ・ 授業には、10回以上の出席をもって成績評価の対象とする。
- ・ 作品評価（100%）

《授業時間外学習》

毎回の授業で得られた造形体験を各自発展させ、主体的に多くの作品を創作してほしい。

《備考》

特に無し。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	オリエンテーション
第 2 週	ポスター制作
第 3 週	ポスター制作
第 4 週	ポスター制作
第 5 週	ポスター制作
第 6 週	モビール制作
第 7 週	モビール制作
第 8 週	モビール制作
第 9 週	モビール制作
第 10 週	モビール制作
第 11 週	飛びだす絵本制作
第 12 週	飛びだす絵本制作
第 13 週	飛びだす絵本制作
第 14 週	飛びだす絵本制作
第 15 週	講評・採点

《学科教育科目》

科目名	造形B				
担当者名	山下 彰一				
授業方法	演習	単位・必選	1・選	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

作品制作を通じて造形の楽しさを伝えることができる力を養う。

《授業の到達目標》

アイデアの出しかたと共に、多様な素材を扱う技術をトレーニングする。折にふれてアートの分野の作品紹介も行う。

《テキスト》

入学時に提示します。

《参考文献》

授業中に紹介する。

《成績評価の方法》

授業には10回以上の出席をもって成績評価の対象とする。
提出作品（70%）と出席状況（30%）の総合評価

《授業時間外学習》

演習科目は授業時間だけで済むものではない。授業時間外においても作品制作にとり組む姿勢が欲しい。

《備考》

時間厳守。用具の準備は怠らない事。

スケッチブック（F6）を毎授業時に持参すること。

その他 水彩道具一式、カッターナイフ、色鉛筆、定規、フェキノリ、ハサミを準備すること。次回持参するものを提示します。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	オリエンテーション
第 2 週	作品制作（切り絵）
第 3 週	作品制作（切り絵）
第 4 週	作品制作（紙ヒコーキ）
第 5 週	作品制作（紙ヒコーキ）
第 6 週	作品制作（モザイク画）
第 7 週	作品制作（モザイク画）
第 8 週	作品制作（パズル）
第 9 週	作品制作（パズル）
第 10 週	作品制作（絵本）
第 11 週	作品制作（絵本）
第 12 週	作品制作（バルーン）
第 13 週	作品制作（バルーン）
第 14 週	作品制作（バルーン）
第 15 週	合評

《学科教育科目》

科目名	造形B				
担当者名	柳楽 節子				
授業方法	演習	単位・必選	1・選	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

この演習授業では、造形の基礎をさらに発展させた内容の課題を出し、受講生が柔軟な発想のもとに作品制作を試みることによって、保育現場に必要な造形力を養うことを目標としている。さまざまな材料を使い、全体で考えながら作品を制作する楽しさが、学生の、造形に対する自信に繋がっていく授業をめざす。

《授業の到達目標》

- * 作品制作に必要な画材や用具を自在に使いこなすことができる。
- * 日常生活のなかで、造形のヒントを探し出す眼を持つ。
- * 園児とともに、造形活動を楽しみながら展開することができる。

《テキスト》

なし

《参考文献》

なし

《成績評価の方法》

- ・提出作品100%による成績評価を行う。
- ・授業には10回以上の出席をもって成績評価の対象とする。

《授業時間外学習》

- ・各授業時に、授業の事前準備及び事後の補足作業を、学生の状況に応じて指示する。

《備考》

- ・作品制作に必要な材料と用具は、各自が事前に準備し、持参して下さい。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	担当者の自己紹介及び授業計画表の配布と説明 学生による自己紹介の作品の制作と提出
第 2 週	課題1 説明プリント配布 割りピン作品制作 1
第 3 週	割りピン作品制作 2
第 4 週	割りピン作品制作 3
第 5 週	割りピン作品制作 4 作品提出
第 6 週	課題2 説明プリント配布 ハウス BOX 作品制作 1 プラン作成
第 7 週	ハウス BOX 作品制作 2 BOX 制作 1
第 8 週	ハウス BOX 作品制作 3 BOX 制作 2
第 9 週	ハウス BOX 作品制作 4 BOX 制作 3
第 10 週	ハウス BOX 作品制作 5 紙粘土人形制作 1 BOX 制作 4
第 11 週	ハウス BOX 作品制作 6 紙粘土人形制作 2 BOX 制作 5
第 12 週	ハウス BOX 作品制作 7 紙粘土人形制作 3 BOX 制作 6
第 13 週	ハウス BOX 作品制作 8 紙粘土人形制作 4 BOX 制作 7
第 14 週	ハウス BOX 作品制作 9 作品完成
第 15 週	作品提出及びまとめ

《学科教育科目》

科目名	造形B				
担当者名	満田 知美				
授業方法	演習	単位・必選	1・選	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

造形遊びをする時、人間は生活していくために必要な行動が自然に組み込まれています。穴を開ける、縫う、編む、織る、切る、貼る、並べる、繋ぐ、組み立てる、こねる、包む、描く。子供は上記の事を遊びを通して行います。このような活動の繰り返しの中で『形のなりたち』を体験することができます。園で開催される行事や展示立体作品を中心に、イベント企画を提案します。

《授業の到達目標》

- オリジナルの紙を作る（集める、並べる）
- 粘土で記念品を作る（組み合わせる、重ねる）
- ダンボール、布、缶で壁面や展示品を作る（組み換える、生かす）

《テキスト》

テキストは使用しない。毎時間ごとにシラバスと参考資料を配布します。

《参考文献》

イタリア/レッジョ・エミリア市の幼児教育実践録 子どもたちの100の言葉（学研）

《成績評価の方法》

- ・授業出席（10回以上の出席をもって成績評価の対象とする）20％・全課題作品の提出50％・試験30％

《授業時間外学習》

- ・予習の方法/毎回、使用する素材や材料、道具を日頃から研究、収集する。
- ・復習の方法/授業内容を再確認し、不明な点は質問したり自分で調べたりしてください。

《備考》

遅刻について/授業のはじめに出席をとります。その後、毎時間ごとのシラバスと参考資料の説明に入ります。上記の説明を聞き損ねた場合は遅刻扱いとします。

持物について/筆記用具、スケッチブック、色鉛筆、クレパス、水彩道具一式（絵具 筆 筆洗 パレット 台拭き）油性ペン水性ペン（各色）、ハサミ、カッター、フェキのり、スタンプ台 ※詳しくは、オリエンテーション時に説明します。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	オリエンテーション 課題、材料、道具の説明。アンケート
第 2 週	造形遊び① 集める、並べる 1 エリックカールの技法。紙の引き出し制作
第 3 週	エリックカールの技法。模写作品
第 4 週	集める、並べる 2 粘土でミニチュアクッキング。food 作り
第 5 週	粘土でミニチュアクッキング。盛りつけ、時間があればストラップ制作
第 6 週	集める、並べる 3 ガチャボンの風鈴
第 7 週	造形遊び② 組み合わせる、重ねる 1 立体ワンコ。型紙切断、組み立て。
第 8 週	立体ワンコ。組み立て、張子作業
第 9 週	立体ワンコ。張子作業、ジェッソ塗り、下図犬制作
第 10 週	立体ワンコ。ジェッソ塗り、下図犬制作、本塗り
第 11 週	立体ワンコ。本塗り
第 12 週	造形遊び③ 組み換える、生かす 1 カンカン宝箱
第 13 週	組み換える、生かす 2 お昼ねテント&ふりふりフラッグ
第 14 週	造形遊び④ 全作品完成チェック後、学内にてピクニックを開催
第 15 週	年内行事『ピクニック』『遠足』『散歩』企画案を作ろう。

《学科教育科目》

科目名	幼児体育A				
担当者名	宮川 和三				
授業方法	演習	単位・必選	1・必	開講年次・開講期	1年・I期

《授業のねらい及び概要》

幼児の発達課題と運動

《授業の到達目標》

幼稚園、保育所教育に必要な体操、スポーツ、レクリエーション種目及び集団行動を遊びゲームを通して子どもに身につけさせる為の研究を主なねらいとし、幼児期の特徴をふまえ、実技の研修からそれぞれにふさわしい指導法を体得する。

《テキスト》

使用しない。授業中に適宜紹介する。

《参考文献》

『健康』原田碩三他著（エデケーション）

『体操ハンドブック』浜田靖一他著（ビジネス出版）

『幼児期の運動遊びの指導と援助－鉄棒・跳び箱・マットあそびの補助を中心に』菊池秀範著（萌文書林）

《成績評価の方法》

各種目毎に実技試験を実施。

毎回の授業毎の評価（20%）、実技テスト（80%）の割合で評価する。

授業回数の1/3を超える欠席者は成績評価の対象とならない。

《授業時間外学習》

毎回の実技(援助法等) についてのイメージトレーニングを行うよう指示する。

《備考》

学生同士の協調性を求め、実技主体とする。

服装は、運動に適したものとする（平服は不可）。

授業中の携帯電話の使用は厳禁とする。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	幼児期の発育発達の特徴について説明
第 2 週	マットを使った運動（援助法等） 〈匍匐、バランス運動〉
第 3 週	マットを使った運動（援助法等） 〈匍匐、バランス運動、ジャンプ運動〉
第 4 週	マットを使った運動（援助法等） 〈前転、後転、横転〉
第 5 週	マットを使った運動（援助法等） 〈側転、倒立、前転、後転開脚前転の組合せ〉
第 6 週	マットを使った運動（援助法等） 〈側転、倒立、前転、後転開脚前転の組合せ〉
第 7 週	〈前転、後転、開脚前転の組合せ〉 実技テスト
第 8 週	跳び箱を使った運動（援助法等） 〈踏切板の蹴りのいろいろ、跳び箱の支持とジャンプ〉
第 9 週	跳び箱を使った運動 とびのり、とびおり遊び
第 10 週	跳び箱を使った運動（援助法等） 〈蹴り、腕支持、ジャンプ、横とび〉
第 11 週	跳び箱を使った運動（援助法等） 補助法〈開脚、閉脚とび、台上前転〉
第 12 週	跳び箱を使った運動（援助法等） 〈開脚、閉脚とび、台上前転〉
第 13 週	〈開脚とび、閉脚とび、台上前転〉 実技テスト
第 14 週	ゲーム遊び
第 15 週	全体のまとめ

《学科教育科目》

科目名	幼児体育B				
担当者名	宮川 和三・徳田 泰伸				
授業方法	演習	単位・必選	1・選	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

幼児の発達課題と運動

《授業の到達目標》

前半の内容とねらいをふまえ、保育実習後の保育現場での、それぞれの取り組み、課題について話し合い、主に実技を通して指導していく。

《テキスト》

使用しない。授業中に適宜紹介する。

《参考文献》

『健康』原田碩三他著（エデケーション）

『体操ハンドブック』浜田靖一他著（ビジネス出版）

『幼児期の運動遊びの指導と援助－鉄棒・跳び箱・マットあそびの補助を中心に』菊池秀範著（萌文書林）

《成績評価の方法》

各種目毎に実技試験を実施。

毎回の授業毎の評価（20%）、実技テスト（80%）の割合で評価する。

授業回数の1/3を超える欠席者は成績評価の対象とならない。

《授業時間外学習》

毎回の実技（援助法等）についてのイメージトレーニングを行うよう指示する。

《備考》

学生同士の協調性を求め、実技主体とする。

服装は、運動に適したものとする（平服は不可）。

授業中の携帯電話の使用は厳禁とする。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	幼児期の発育発達の特徴について説明
第 2 週	鉄棒を使った運動（援助方法等） 〈腕支持、ぶらさがり、踏み越しおり、足ぬき、ぶたの丸やき〉
第 3 週	鉄棒を使った運動（援助方法等） 〈腕支持、逆さおり、前まわりおり、倒立おり、持ちかえおり〉
第 4 週	鉄棒を使った運動（援助方法等） 〈倒立おり、足かけあがり、逆あがり〉
第 5 週	鉄棒を使った運動（援助方法等） 〈前まわり、後まわり、逆あがり、足かけあがり〉
第 6 週	鉄棒を使った運動（援助方法等） 〈前まわり、後まわり、逆あがり、足かけあがり〉
第 7 週	〈前まわり、後まわり、逆あがり、足かけあがり〉 実技テスト
第 8 週	トランポリンを使った運動（援助方法等） 〈あがり方、おり方、とまり方、1人・2人ジャンプ〉
第 9 週	トランポリンを使った運動（援助方法等） 〈1人・2人ジャンプ、ニードロップ、シートドロップ〉
第10週	トランポリンを使った運動（援助方法等） 〈ニードロップ、シートドロップ、ニードロップ連続〉
第11週	トランポリンを使った運動（援助方法等） 〈ジャンプ1/2、ニードロップ、シートドロップ連続〉
第12週	トランポリンを使った運動（援助方法等） 〈ジャンプ1/2、シートドロップ、ニードロップ、シートドロップ連続〉
第13週	〈ジャンプ1/2、シートドロップ、ニードロップ、シートドロップ連続〉 実技テスト
第14週	ゲーム遊び
第15週	全体のまとめ

《学科教育科目》

科目名	小児保健A				
担当者名	西村 美穂代				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	1年・I期

《授業のねらい及び概要》

乳幼児が心身の健全な成長・発達を達成するために、小児の生活・発達段階にかかわる基礎的な事項(心身の健康)を理解するための学習。

《授業の到達目標》

胎生(胎児)からの乳幼児の成長・発達、乳幼児の特性を理解することができ、小児保健の意義を学び保育者としての保育・養護に必要な知識を修得する。

《テキスト》

新改訂版「わかりやすい小児保健」 第二版 西村口三 編著 同文書院

《参考文献》

その都度、提示する

《成績評価の方法》

小テスト(30%)、VTR視聴(学習)のレポート提出(20%)、定期試験(50%)
 「授業欠課回数が授業実施回数(15回)の3分の1以上欠課した学生は単位を与えない」
 但し、正当な欠課理由がある場合には、その証明となるものを提出すること。

《授業時間外学習》

テレビ番組の小児保健と関連する番組を視聴します。
 テレビの特性である動画・声・音から、目・耳を通して、子どもの様々な特徴や親の子どもに対するおもしろい・かかわり方を感じ取り、授業時にイメージできるようにしておいてください。
 番組は次の2番組を予定します。

1. よみうりテレビ「ten! [めばえのコーナー]」(月曜日～金曜日・18:52～18:57)
2. NHK教育テレビ「すくすく子育て」(毎週土曜日・21:00～21:29) ※番組内容(テーマ)は、毎週異なります。

《備考》

ニュースや新聞等での「子どもの健康」「子どもの事故」に関する記事を、講義に取り入れることもありますので注目しておいてください。

子どもを育てる職業を目指す皆さんであり、授業では人の話しを聴く・聴講のマナーを守る、という態度を示してください。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第1週	開講にあたり担当者と学生との共通理解事項 小児保健Aの学習目的・展開方法 各自がもつ健康な子どものイメージ
第2週	小児期の区分(新生児～思春期) 出生前期の成長発達の特徴
第3週	出生前期の子どもの成長発達・健康を保持増進するための取り組み
第4週	新生児の成長発達(形態的・機能的・精神的)の特徴(VTR視聴)
第5週	新生児期の子どもの成長発達・健康を保持増進するための取り組み
第6週	乳児の成長発達の特徴(乳児期全般の特徴)(VTR視聴)
第7週	乳児の成長発達の特徴(各時期ごとの主な体と心の発達)
第8週	幼児の成長発達・健康を阻害する要因
第9週	幼児期前期・幼児期後期の養護
第10週	乳幼児の健康管理と身体発育の評価
第11週	乳児期の食生活と食教育 小児期の食生活の特性
第12週	予防接種(保育所・幼稚園での予防接種の意義)
第13週	予防接種(ワクチンの種類と特徴)
第14週	小児保健対策(主に新生児対策と乳幼児対策について) 小児保健統計(人口・出生・死亡)
第15週	母子保健サービスによる主な健康支援事業(主に病後児保育について) 「健やか親子21」の取り組み 2週目～14週目迄のまとめ

《学科教育科目》

科目名	小児保健B				
担当者名	西村 美穂代				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

小児保健Aで学習した乳幼児の発育・発達の特徴を想起しながら、乳幼児に起こりやすい疾患・症状・事故についての理解を深めるとともに、保育者として子どもの異変時に的確な判断が行え、対応できる力を身につける学習。

《授業の到達目標》

乳幼児特有の疾患・症状の理解ができ、その予防と対応方法、事故に対する安全対策・事故時の対応が行え、子どもの生命を守ることができるように知識の獲得ができる。

《テキスト》

新改訂版「わかりやすい小児保健」 第二版 西村口三 編著 同文書院

《参考文献》

その都度、提示する。

《成績評価の方法》

小テスト (30%)、VTR 視聴 (学習) のレポート提出 (20%)、定期試験 (50%)
 「授業欠課回数が授業実施回数 (15 回) の 3 分の 1 以上欠課した学生は単位を与えない」
 但し、正当な欠課理由がある場合には、その証明となるものを提出すること。

《授業時間外学習》

テレビ番組の小児保健と関連する番組を視聴します。
 テレビの特性である動画・声・音から、目・耳を通して、子どもが病気になった時の状態を知り、その対応方法を学び、授業時にその病気と対応方法が想起できるようにしておいてください。
 番組は次の番組を予定します。
 ○NHK 教育テレビ「すくすく子育て」(毎週土曜日・21:00~21:29)
 ※番組内容(テーマ)は、毎週異なります。

《備考》

ニュースや新聞での「子どもの健康」「子どもの事故」に関する記事を講義に取り入れることもありますので、注目しておいてください。
 通園(保育園・幼稚園)している健康な子どもたちに「命の大切さ」を教えてほしいと願う思いから、疾患についての授業では「難病にかかり死にゆく子ども」のVTRを視聴します。
 子どもを育てる職業を目指す皆さんであり、授業では人の話を聴く・聴講時のマナーを守る、という態度を示してください。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	開講にあたり担当者と学生との共通理解事項 小児保健Bの学習目的・展開方法 小児保健Aの大まかな復習・確認
第 2 週	子どもに起こる主な症状と観察、その対応方法 (VTR 視聴予定)
第 3 週	子どもによくみられる先天性の病気とそのかかわり方 (VTR 視聴)
第 4 週	子どもによくみられるウイルスによる感染症 乳幼児によくみられるウイルスによる食中毒とその予防
第 5 週	子どもによくみられる細菌による感染症とその他の感染症 乳幼児によくみられる細菌による食中毒とその予防
第 6 週	子どもによくみられる呼吸器の病気
第 7 週	子どもによくみられる消化器・循環器の病気
第 8 週	子どもによくみられる主な血液の病気と小児がん
第 9 週	第 8 週で学習した血液の病気(白血病)に罹患した子どもの VTR 視聴
第 10 週	子どもによくみられる腎臓・泌尿器・代謝の病気 (VTR 視聴予定)
第 11 週	子どもによくみられるアレルギー・皮膚・眼・鼻の病気
第 12 週	子どもによくみられるストレスから起こる病気とそのかかわり方
第 13 週	発達段階における事故と安全管理
第 14 週	子どもの事故による救急処置:熱中症・骨折・やけど・出血
第 15 週	子どもの毒物・異物による事故の対応 2 週目~14 週目までのまとめ

《学科教育科目》

科目名	児童福祉				
担当者名	杉山 貴要江				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	1年・I期

《授業のねらい及び概要》

現代社会における児童福祉の現状と課題について学習します。

保育士は保育、子育て支援の専門職であることを認識し、児童福祉での学びが実践活動に活かせるようにすることを目指します。

《授業の到達目標》

現代社会における児童の実態を理解し、児童の福祉問題について主体的に考えることができるようにします。

《テキスト》

『保育士養成テキスト3 児童福祉』 山野則子・金子恵美編著 (ミネルヴァ書房)

『保育福祉小六法2010』 小六法編集委員会編 (株式会社みらい)

《参考文献》

授業中に紹介する予定です。

《成績評価の方法》

テスト(100%)で評価します。

《授業時間外学習》

テキストに沿って授業は進めます。シラバスで授業の進捗を確認し、事前にテキストを読んでおいてください。

《備考》

本授業は、保育実習Ⅰ(施設実習)に連動しています。保育士として必要な児童の福祉に関する専門的知識を学ぶ場です。理解できるよう平易に説明するよう努めますので、学生の皆さんも「授業時間外学習」を充実させて授業に臨むことをお願いしておきます。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第1週	保育者と児童福祉 現代の子どもの姿とその保護者の状況を概観し、保育者に何が求められているのか、本授業で何を学ぶのかについて、説明します。
第2週	児童福祉の理念とその歴史的展開 児童福祉理念の変遷を概観し、「児童の権利に関する条約」に謳われる子どもの権利のとらえ方を理解します。
第3週	わが国の児童福祉に関する制度と福祉機関・施設 児童福祉を支える法律、制度とその実施機関について学習します。
第4週	児童福祉の現状と課題-1 少子化対策と子育て支援に関する児童福祉サービスの変遷と実情について学習します。
第5週	児童福祉の現状と課題-2 健全育成について、主に児童厚生施設の実態について学習します。
第6週	児童福祉の現状と課題-3 母子保健サービスの目的・意義、実施体制等について理解し、児童福祉における健康診査の意義について学習します。
第7週	児童福祉の現状と課題-4 保育サービスの今日的意義と目的について理解し、保育所の歴史と役割の変遷についても学習します。
第8週	児童福祉の現状と課題-5 児童虐待が増加する現状を分析し、虐待防止に関する施策と保育者の役割について考えます。
第9週	児童福祉の現状と課題-6 障がいのある子どもとその保護者への支援について学習し、早期療育の意義について考えます。
第10週	児童福祉の現状と課題-7 社会的養護について、児童福祉施設の種別とその目的を理解します。また、家庭的養護についても学習します。
第11週	児童福祉の現状と課題-8 少年非行の実態を概観し、児童自立支援施設の内容と役割について学習します。また、情緒障がいについての理解を深めます。
第12週	児童福祉の現状と課題-9 ひとり親家庭の動向について分析し、その支援策を学習します。母子生活支援施設の実情、父子家庭の福祉施策についても触れ、その課題について考えます。
第13週	諸外国の現状 視聴覚教材を活用し、スウェーデンの保育所の実態を捉え、わが国の実情と比較検討します。そして、児童福祉の理念を踏まえた保育所のあり方について考察します。
第14週	児童福祉の実践と児童福祉従事者 児童福祉の専門職について確認し、関連機関の連携、援助方法について、事例を通して学習します。
第15週	学習のまとめ 児童福祉に関する学習を振り返り、保育実習及び将来の進路の選択に役立てられるよう、各自課題を見出します。

《学科教育科目》

科目名	保育原理 I A				
担当者名	福田 規秀				
授業方法	講義	単位・必選	2・必	開講年次・開講期	1年・I期

《授業のねらい及び概要》

今の社会に必要なとされる保育について、システムや法令、実態を含め真摯に考えながら、何が子どもにとっての最善の利益なのかを、多様な保育ニーズや社会変化を軸に考察を深めていく。学生諸君の幼い日の経験が考える原点とも言えます。その中の何が現在の自分に影響しているのか、学びながら解き明かしていきましょう。

《授業の到達目標》

保育とは何かを問い続けることは子どもを理解すること、保育のあり方について探求することであり、それは自らの子ども観・保育観の形成、向上につながっていくものである。この講義では、保育の基本原則を学ぶことを通して乳幼児期における保育の意義について概観し、その内容の基盤を多様な角度から考察する中で、保育者として必要な基礎的知識の習得を目指す。つまり保育実践にあたり必要となる基本的な知識の習得と自らの保育や子どもへの想いを自覚することを目指します。

《テキスト》

- 『新・保育原理』一すばらしき保育の世界ー（みらい 2009）
- 『最新保育資料集2010』森上史朗編（ミネルヴァ書房 2010）
- 『幼稚園教育要領解説』文部科学省（フレーベル館 2008）
- 『保育所保育指針解説書』厚生労働省編（フレーベル館 2008）

《参考文献》

- 『フレーベルの生涯と思想』荘司雅子著（玉川大学出版部 1984）
- 『センス・オブ・ワンダー』レイチェル・カーソン著 上遠恵子訳（新潮社 1996）
- 『クリティカル進化論』道田泰司・宮元博章著 秋月りす画（北大路書房 1999）
- 『子どもの世界をどうみるか』津守真著（NHKブックス 1987）

その他授業中に随時紹介する。

《成績評価の方法》

受講態度や課題提出物等（20%）と筆記試験（80%）の総合評価。課題の提出は期限内でお願いします。授業回数の1/3を超える欠席者は成績評価の対象とならない。

《授業時間外学習》

講義終了時に次回講義の予告を行うので、教科書等の該当箇所を熟読のこと。学びにはリフレクションが重要です。よって講義内容を自分なりの方法でノートにしっかりまとめておくこと。適宜課題を出すので真面目に取り組んでください（例えば子どもに関する新聞記事のスクラップやネットを利用した情報収集、メディアを駆使したレポート課題の提出等）。

《備考》

全体の授業計画については、授業の進行状況に応じて適宜変更することがある。幼稚園教育要領や保育所保育指針をはじめ、法令を見ることも多いので『最新保育資料集』を忘れないこと。子どもに関する情報を様々なメディアを通じて自分でも収集することに努めること。また実際の子どもの観察する機会を多く持つてほしい。予習、復習に当たった疑問は、講義時やオフィスアワー等を利用して遠慮なく質問してください。保育者を目指すにあたり、出席や受講態度、事前準備に気をつけること。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	授業へのオリエンテーション、保育の意味を考えるー保育とは
第 2 週	保育の意味を考えるーなぜ保育が必要なのか
第 3 週	保育の場について知るー家庭
第 4 週	保育の場について知るー保育施設
第 5 週	保育の思想とその歴史を学ぶー諸外国
第 6 週	保育の思想とその歴史を学ぶー日本
第 7 週	保育の思想とその歴史を学ぶー保育制度の成立
第 8 週	どのように保育を考え進めるべきかを考えるー保育所保育指針
第 9 週	どのように保育を考え進めるべきかを考えるー幼稚園教育要領
第 10 週	どのように保育を考え進めるべきかを考えるー子ども理解と保育観
第 11 週	保育の内容を学ぶー基本的な考え方
第 12 週	保育の内容を学ぶーねらい、内容、領域とは
第 13 週	保育課程・教育課程について学ぶー計画するとは
第 14 週	保育課程・教育課程について学ぶー保育課程・教育課程の実際
第 15 週	まとめ・筆記試験

《学科教育科目》

科目名	養護原理 I				
担当者名	高谷 博之				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

社会的養護の今日的課題と意義について学ぶ。

家庭の養育機能の脆弱化が進む中、子育て支援、子どもの自立支援が重要な課題となっている。家庭養護の機能を再構築するために、地域社会・公的役割を模索すると共に、その社会的養護の意義について学ぶ。又、社会的養護実践の大きな部分を占める児童福祉施設の機能を理解すると共に、児童養護の体系の理解を深める。保育士として、子どもと向かい合い、子どもの自立を支援するための対人援助の方法を理解すると共に模索する。

《授業の到達目標》

- ・施設養護の基本原則（原則）を説明できる。
- ・児童憲章、子どもの権利条約について説明できる。
- ・専門職としての専門性を理解し、施設実習に役立てることができる。

《テキスト》

シリーズ福祉新時代を学ぶ 『三訂 新選・児童養護の原理と内容』 神戸賢次、喜多一憲・編 ㈱みらい

《参考文献》

《成績評価の方法》

- ・定期試験（70%）（ノートのみ持込可とする）
- ・レポート課題等の提出物（30%）（提出遅れについては、減点する）
- ・授業欠席回数が授業実施回数の3分の1以上欠席した者には単位を与えない

《授業時間外学習》

- ・教科書の指定箇所を読んでおくこと（予習・復習）

《備考》

- ・授業開始時に欠席の確認を行うため、始業時間を厳守すること。
- ・授業中の私語や携帯メール、居眠りは厳禁。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	社会的児童養護の現状（子どもを取り巻く環境、社会的児童養護を必要とする子ども）
第 2 週	児童養護の定義 児童虐待の未然防止について
第 3 週	捨てられ体験について
第 4 週	社会的児童養護の歴史と今日的課題 「子どもの最善の利益」について
第 5 週	社会的児童養護の基本理念 「子どもの権利条約」について
第 6 週	施設養護の基本原則
第 7 週	施設養護実践における専門性の課題 要保護児童の発達課題
第 8 週	施設養護の実践と方法 「日常生活・自立支援」
第 9 週	施設養護の実践と方法 「治療的援助」
第 10 週	施設養護の実践と方法 「親子関係、学校・地域との関係調整」
第 11 週	地域の社会的児童養護機関
第 12 週	次世代育成支援と地域の子育て支援
第 13 週	施設養護の職員と求められる倫理
第 14 週	職員の専門性の課題 施設運営と財政措置
第 15 週	児童養護における養育のあり方 学習のまとめ

《学科教育科目》

科目名	教育実習				
担当者名	三浦 摩美・藤井 恵美子				
授業方法	実習	単位・必選	5・選	開講年次・開講期	1年・I期分

《授業のねらい及び概要》

教育実習に必要な知識、実践技能を総合的に身につける。事前指導においては、幼稚園の基本を学び、幼稚園教育へ意欲を持って取り組むとともに、幼児の発達を理解しそれに合った保育の実践力を身につける。事後指導では、実習で学んだことを振り返り、課題を明確にし、積極的に実践力を身につける。

《授業の到達目標》

- ・幼稚園の基本を知る。
- ・幼稚園生活における幼児の姿を理解し、保育実践につながるようにする。
- ・指導計画の意義を理解し、立案できるようにするとともに、保育技術の習得を図る。

《テキスト》

- 『幼稚園教育要領の解説』
- 『実習の手引き』
- 『実習日誌の書き方』(萌文堂書林)
- 『保育実技』(萌文堂書林)

《参考文献》

授業中に適宜紹介する。

《成績評価の方法》

実習における評価(70%)・授業中に課す提出物、発表内容及び期限遵守、授業態度(30%)を総合的に評価する。

《授業時間外学習》

- ・テキストの指定箇所をあらかじめ熟読しておくようにしてください。
- ・授業ではたくさんの教材・教具を紹介するつもりです。各自、保育に活かせる教材・教具を計画的に収集してください。
- ・適宜課題を出すので、その課題に取り組み期日に提出するようにしてください。
- ・手遊び、歌、絵本などの教材集を作成します。それらの教材研究を計画的に進めてください。
- ・授業内容を再確認し、不明な点は次回の授業で質問したり調べるようにしてください。

《備考》

実習を受けるための資格条件を厳守し、積極的、意欲的に授業に参加すること。正当な理由のない欠席、遅刻、早退については厳重に注意する。実習内規及び要綱にしたがって実習参加の可否を決定する。その他、授業の妨害になることは厳重に対処する。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	オリエンテーションおよび幼稚園の基本について 幼稚園教育要領に基づいて
第 2 週	幼稚園教育の基本について 幼稚園教育要領の解説に基づいて
第 3 週	保育者を目指すあなたへ 幼稚園の現場を知る
第 4 週	保育者を目指すあなたへ 保育の中でのかかわり
第 5 週	幼児の発達について(幼児理解) 幼稚園生活での3歳児の姿をとらえる
第 6 週	幼児の発達について(幼児理解) 幼稚園生活での4歳児の姿をとらえる
第 7 週	幼児の発達について(幼児理解) 幼稚園生活での5歳児の姿をとらえる
第 8 週	「保育」と「教師の援助」について 入園当初～8月
第 9 週	「保育」と「教師の援助」について 9月～3月
第10週	教育課程と指導計画について 幼稚園の行事と「期の計画」について
第11週	教育課程と指導計画について 月の計画と週の計画、日の計画について
第12週	指導計画について 「ねらい」と「内容」について
第13週	指導計画について 子どもの姿と遊び
第14週	指導計画について 環境構成と予想される子どもの活動
第15週	指導計画の作成

《学科教育科目》

科目名	教育実習				
担当者名	三浦 摩美・藤井 恵美子				
授業方法	実習	単位・必選	5・選	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期分

《授業のねらい及び概要》

実習に必要な知識、技能を身につける。事前指導においては、幼稚園の基本を学び、幼児教育へ意欲を持って取り組むとともに、幼児の発達を理解しそれに合った保育の実践力を身につける。事後指導では、実習で学んだことを振り返り、課題を明確にし、積極的に実践力を身につける。

《授業の到達目標》

- ・幼稚園生活の流れを知り、保育者の仕事の実態把握に努める。
- ・教育実習生としての必要な心得や行動、保育や幼児理解の実際にとざさわる素地を身につける。
- ・保育における基礎的事項を理解し現場での指導を受ける。

《テキスト》

- 『幼稚園教育要領の解説』
- 『実習の手引き』
- 『実習日誌の書き方』（萌文堂書店）
- 『保育実技』（萌文堂書店）

《参考文献》

授業中に適宜紹介する。

《成績評価の方法》

実習園における評価（70%）・授業中に課す提出物、発表内容及び期限厳守、授業態度（30%）を総合的に評価する。

《授業時間外学習》

- ・テキストの指定箇所をあらかじめ熟読しておくようにしてください。
- ・授業ではたくさんの教材・教具を紹介するつもりです。各自、保育に活かせる教材・教具を計画的に収集してください。
- ・適宜課題を出すので、その課題に取り組み、期日に提出するようにしてください。
- ・手遊び、歌、絵本などの教材集を作成します。それらの教材研究を計画的に進めておいてください。
- ・授業内容を再確認し、不明な点は次回の授業で質問したり調べるようにしてください。

《備考》

実習を受けるための資格条件を厳守し、積極的、意欲的に授業に参加すること。正当な理由のない欠席、遅刻、早退については厳重に注意する。実習内規及び要綱にしたがって実習参加の可否を決定する。その他、授業の妨害になることは厳重に対処する。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	見学・観察実習の授業の進め方について 教育実習について 見学・観察実習と参加・指導実習の違い
第 2 週	実習生としての視点について 幼稚園生活の流れを知る
第 3 週	実習生としての視点について 子どもの姿を見る
第 4 週	実習生としての視点について 保育内容をどう見るか、子どもの姿と教師の援助
第 5 週	実習日誌の書き方について 実習園のオリエンテーション・1週間の保育の流れ 園の環境構成
第 6 週	実習日誌の書き方について 観察のポイント 環境構成
第 7 週	実習日誌の書き方について 子どもの活動 教師の援助と実習生として感じたこと、考えたこと
第 8 週	実習日誌の書き方について 観察場面の記録について 反省、課題について
第 9 週	実習に向けての心構えと注意点 持ち物、服装、身だしなみ、実習中の態度など実習生としての在り方
第 10 週	実習後の反省と課題 お礼状を書く
第 11 週	参加・指導実習に向けての心構えと幼稚園教育の保育の進め方を振り返る
第 12 週	指導計画の作成と保育教材作り
第 13 週	指導計画の作成と保育教材作り
第 14 週	指導計画の作成と保育教材作り
第 15 週	指導計画の作成と保育教材作り

《学科教育科目》

科目名	保育実習 I				
担当者名	宮川 和三・徳永 満理				
授業方法	実習	単位・必選	5・選	開講年次・開講期	1年・I期分

《授業のねらい及び概要》

保育所の見学・観察や諸活動への参加、および実際に保育にあたることにより、児童の特性、保育所の内容と機能、保育士の職務の実践について実践的に学び、生きた子ども観・保育観を修得することを目標とする。(10月2週間) そのために学内では、保育実習に必要な手続きを行い、実習の意義、具体的な内容・方法・心得などについて事前に学習する。

《授業の到達目標》

“子ども”と“保育”の実際の姿を通して、生きた子ども観・保育観を理解する。
 保育所の一日の流れ、設備・機能や社会的役割を理解する。
 保育保育士の役割とその内容を理解する。

《テキスト》

『保育・福祉小六法』(みらい)・保育ライブラリ『保育所実習』(北大路書房)
 配布プリント

《参考文献》

適宜、講義時に紹介します。

《成績評価の方法》

保育所 (50%)、施設実習 (50%) の評価を参考に評価する。
 保育所実習の評価は現場評価 (80%)、事前事後指導 (20%) とする。

《授業時間外学習》

- 居住近くの保育所(園)を見学させてもらう(外からでも良い)。
- トライアルウィークで保育所(園)を経験した人は、その時の内容を思い出して実習に生かせるようにする。
- 家事の手伝いを積極的にしておく。

《備考》

- 1.保育実習 I は、保育実習の事前事後指導・保育所実習・保育所以外の児童福祉施設での施設実習の3種類からなっている。すべてを受けなければならない。
- 2.欠席・遅刻をしないこと。やむをえず欠席・遅刻の場合は、必ず保育研究室へ電話をすること。後日担当者の指示をうけること。
- 3.時には掲示での指導連絡もある。掲示を見て行動すること。(ピロティと保育研究室前)

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	保育実習とは(実習全体の説明) 保育士資格について
第 2 週	保育所の概要と実習の意義について 保育所と幼稚園のちがひ
第 3 週	保育実習の手続き 連休中に実習先を決定。私立は内諾依頼
第 4 週	保育所保育希望受け付け 個人票記入(写真用意)
第 5 週	保育所の生活 I(乳児)
第 6 週	保育所の生活 II(幼児) ・障害児保育
第 7 週	保育所最低基準 ・「保育所保育指針」について
第 8 週	実習の心がまえ (1) 実習生として
第 9 週	実習の心がまえ (2) 公立保育所先順次発表
第 10 週	実習の心がまえ (3) 子ども達とのかかわり
第 11 週	観察の観点と記録 I 実習ノート
第 12 週	実習中の注意事項 巡回カード
第 13 週	実習中の注意事項 巡回カード
第 14 週	最終事項指導 巡回カード回収 実習までの日程(夏休み中実習先へ挨拶など) 細菌検査容器配布
第 15 週	直前指導 実習中の注意事項 巡回教員と顔合わせ 細菌検査の受け付け

《学科教育科目》

科目名	保育実習Ⅰ				
担当者名	笹田 哲男・杉山 貴要江				
授業方法	実習	単位・必選	5・選	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期分

《授業のねらい及び概要》

事前学習では、実習を円滑に進めていくための知識・技術を習得し、学習内容・課題を明確にし、実習計画書を作成する。実習中には、実習指導担当者の指導のもとに、実習計画書に従って課題を達成する。事後学習では、実習体験を振り返り、実習報告書を作成するとともに新たな学習目標を明確にする。

《授業の到達目標》

「居住型児童福祉施設等の生活に参加し、利用者の理解を深めるとともに、施設の機能と保育士の職務について学ぶ。

《テキスト》

『福祉施設実習ハンドブック』内山元夫他編（みらい）

《参考文献》

『保育福祉小六法2009』（みらい）

《成績評価の方法》

実習施設の評価（60%）、事前学習（20%）、事後学習（実習報告書の提出）（20%）で評価する。

《授業時間外学習》

実習施設の種別ごとに、課題を出します。それによって学習してください。

《備考》

全出席を原則とします。遅刻は記録します。やむを得ず欠席をする場合は、事前に保育研究室に連絡をすることとします。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	保育実習Ⅰ（保育所）
第 2 週	保育実習Ⅰ（保育所）
第 3 週	保育実習Ⅰ（保育所）反省会
第 4 週	保育士資格における保育実習Ⅰ（施設）の位置づけの説明 評価の基準説明、実習施設の決定、個人票記入（下書き）等
第 5 週	実習施設全体の理解 視聴覚教材を用いて施設実習の概要を把握する。 実習ノートの配布、個人票記入（清書）等
第 6 週	養護系／障害児者系の施設に分かれての学習 - 1 実習施設についての学習、実習計画書作成のための学習
第 7 週	養護系／障害児者系の施設に分かれての学習 - 2 実習施設についての学習、実習計画書作成のための学習、実習記録の意義・方法の理解
第 8 週	養護系／障害児者系の施設に分かれての学習 - 3 実習計画書作成（1）
第 9 週	教育実習（幼稚園）
第 10 週	養護系／障害児者系の施設に分かれての学習 - 4 実習計画書作成（2）
第 11 週	施設でのオリエンテーション（A B C Dクラス合同） 施設への連絡方法及びオリエンテーションの意義と諸注意 オリエンテーション報告書の提出について、実習施設・班ごとの連絡網作成と班長の決定
第 12 週	実習の心構えについて 実習計画書の完成と提出方法（施設・保育研究室・学生控え） 細菌検査容器配布、健康診断書の提出、実習事前、実習中の感染性の病気について（インフルエンザ予防注射等）
第 13 週	実習中及び実習後について 巡回指導教員の掲示と挨拶、報告書の書き方と提出方法、礼状について
第 14 週	実習前の確認 計画書の提出、オリエンテーション報告書の提出、巡回挨拶実施
第 15 週	実習前最後の連絡（A B C Dクラス合同） 後輩のためのアンケート用紙配布、実習施設持参書類の配布（班長）

《学科教育科目》

科目名	発達心理学				
担当者名	松田 信樹				
授業方法	講義	単位・必選	2・必	開講年次・開講期	1年・I期

《授業のねらい及び概要》

人間の生涯にわたる発達のプロセスを理解することを目標とする。誕生から死に至るまでの人間発達のプロセスを発達段階にわけ、それぞれの段階における発達の特徴を解説する。

《授業の到達目標》

- 誕生から死にいたるまでの生涯発達のプロセスを理解できるようになること。
- 保育者として一人の人間の発達を「見つめる」視点を身につけること。

《テキスト》

テキストは使用しない。毎回プリントを配布する。

《参考文献》

- 『よくわかる発達心理学』 無藤隆・岡本祐子・大坪治彦（編） ミネルヴァ書房 2004
- 『図でわかる発達心理学』 新井邦二郎（編著） 福村出版 1997
- 『新版発達心理学への招待』 柏木恵子・古澤頼雄・宮下孝広（著） ミネルヴァ書房 2005
- 『キーワードコレクション発達心理学[改訂版]』 子安増生・二宮克美（編） 新曜社 2004

《成績評価の方法》

最終回に行う授業目標の到達度評価（テスト）100%

《授業時間外学習》

参考文献として挙げた文献などを読むことで、授業中に挙げたテーマについて理解を深めること。

《備考》

「発達心理学」が必修科目になっている意味を理解したうえで、授業に参加してください。ただ授業に来るだけ、プリントをもらうだけでは、単位取得は困難です。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	オリエンテーション（発達心理学では何を学ぶか）
第 2 週	人が発達するとはどういうことか？
第 3 週	人間の発達を支える遺伝と環境
第 4 週	胎児期・新生児期
第 5 週	新生児期・乳児期
第 6 週	乳幼児期 その1
第 7 週	乳幼児期 その2
第 8 週	幼児期・児童期 その1
第 9 週	幼児期・児童期 その2
第 10 週	幼児期・児童期 その3
第 11 週	青年期
第 12 週	青年期から成人期
第 13 週	成人中期・後期
第 14 週	まとめ：人間の生涯発達をふりかえる
第 15 週	授業目標の到達度評価(テスト)

《学科教育科目》

科目名	児童心理学				
担当者名	松田 信樹				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

保育士あるいは幼稚園教諭が接する年齢段階にある子どもたちが、環境との関わりの中で、どのように成長していくのかを学ぶ。子どもの成長の過程を、人間関係や言葉、認知など様々な角度から描き出していきます。

《授業の到達目標》

- 子どもの発達について様々な視点から捉えられるようになること。
- 子どもの発達にとって、人を含めた環境との関わりがいかに大切かを説明できるようになること。

《テキスト》

テキストは使用しない。毎回プリントを配布する。

《参考文献》

- 『はじめて学ぶ乳幼児の心理 - こころの育ちと発達の支援』 桜井茂男（編） 有斐閣 2006
- 『グラフィック乳幼児心理学』 若井邦夫・高橋道子・高橋義信・堀内ゆかり（著） サイエンス社 2006
- 『乳幼児発達心理学 - 子どもがわかる好きになる』 繁多進（編著） 福村出版 1999

《成績評価の方法》

授業目標の到達度評価（テスト）100%。

《授業時間外学習》

参考文献として取り上げた文献などを読むことで、授業中に取り上げたテーマについて理解を深めること。

《備考》

保育士や幼稚園の先生をこころざす学生のみなさんにとって、役に立つ授業を目指します。授業にまじめに取り組める学生の受講を希望します。ただ授業に出席するだけ、プリントをもらうだけでは、単位取得は困難です。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	イントロダクション 子ども心理学を学ぶ意義
第 2 週	子ども時代の発達の特徴
第 3 週	親と子を結ぶ絆：愛着の発達
第 4 週	愛着の発達とコミュニケーション
第 5 週	ことばとコミュニケーションの発達
第 6 週	自分を取り巻く世界を知るはたらき：認知発達その 1
第 7 週	自分を取り巻く世界を知るはたらき：認知発達その 2
第 8 週	子どもの知的発達：ピアジェの理論をめぐって
第 9 週	子どもの発達と遊び
第 10 週	発達の「つまずき」を正しく理解する その 1
第 11 週	発達の「つまずき」を正しく理解する その 2
第 12 週	他者のこころの理解と思いやりの発達
第 13 週	自己と情動の発達
第 14 週	子ども時代の発達をふりかえる
第 15 週	授業目標の到達度評価（テスト）

《学科教育科目》

科目名	臨床心理学				
担当者名	古賀 愛人				
授業方法	演習	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

臨床心理学とは、人間の心の問題や葛藤に対して、心理学的な知識や技法を用いて問題解決のための援助をする学問です。そのためには問題に対するアセスメントと介入をすることになるが、心理アセスメントとその結果としての様々な精神障害、介入法としての心理療法を学ぶことにより、心の健康とは何かを理解できるようになることをめざします。

《授業の到達目標》

- 臨床心理学とは何かを説明できる。
- 「心」の問題、精神障害について説明できる。
- 「心」の問題をどのようにアセスメントするかを説明できる。
- 「心」の問題を解決する方法を説明できる。

《テキスト》

(図解雑学) 臨床心理学 松原達哉編 (株) ナツメ社 2002

《参考文献》

(よくわかる) 臨床心理学—改定新版— 下山晴彦 ミネルヴァ書房 2009
DSM—IV—TR (新訂版) 高橋三郎他訳 医学書院

《成績評価の方法》

授業の質疑応答討論への参加度 20%と定期試験 80%で評価します。

《授業時間外学習》

シラバス (授業計画) により、教科書を予習しておくことが必要です。

《備考》**《授業計画》**

週	授 業 計 画
第 1 週	臨床心理学とは何か
第 2 週	臨床心理学と教育・医学・福祉等他の領域との関係
第 3 週	臨床心理学の概念色々 —人間の「心」とは何か
第 4 週	臨床心理学も概念色々 —介入法における問題点
第 5 週	心に表われる様々な症状① —統合失調症
第 6 週	心に表われる様々な症状② —気分障害
第 7 週	心に表われる様々な症状③ —不安障害
第 8 週	心に表われる様々な症状④ —解離性障害と身体表現性障害
第 9 週	心に表われる様々な症状⑤ —発達障害その他
第 10 週	心の問題を解決する心理療法① —精神分析療法
第 11 週	心の問題を解決する心理療法② —来談者中心療法
第 12 週	心の問題を解決する心理療法③ —認知行動療法
第 13 週	心理アセスメント①
第 14 週	心理アセスメント②
第 15 週	まとめ講義

《学科教育科目》

科目名	保育課程総論				
担当者名	藤井 恵美子				
授業方法	講義	単位・必選	2・必	開講年次・開講期	1年・I期

《授業のねらい及び概要》

- ・ 教育課程・保育計画の全体構造・具体的な編成等を知る。
- ・ 保育に対する基本を理解した上で、子どもの主体性を尊重する環境構成、保育の内容について考える。
- ・ 保育者の専門性を明確にし、保育者の役割と保育の計画性の関係について学ぶ。

《授業の到達目標》

- ・ 教育課程・保育計画の意義や目的を十分に理解し、理論と実践をつなぐことができる。
- ・ 子どもの発達の過程を視点においた教育課程と保育計画に関する基礎的な知識を習得する。

《テキスト》

「教育課程総論」 小田 豊・神長美津子編著 北大路書房

《参考文献》

「教育課程・保育計画総論」 柴崎正行・戸田雅美編 ミネルヴァ書房

「幼児教育課程・保育計画総論」 森上史朗・阿部明子 建帛社

「幼稚園教育要領」

「保育所保育指針」

《成績評価の方法》

定期テスト50%、レポート30%、受講態度20%

《授業時間外学習》

- ・ 次回の授業範囲を予習しておくこと。特に、教科書をよく読んでおくこと。
- ・ 適宜課題を出すので、その課題について深く考えたり、調べたりしてまとめてきてください。
- ・ 授業で学んだことを振り返り、ノートにまとめておいてください。

《備考》

- ・ 幼稚園・保育所などに関する情報（新聞、ニュースなど）を常に、意識して収集しておいてください。
- ・ 教科書は必ず持参してください。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	オリエンテーション（授業の目的、内容、方法、評価について） 保育とは何か
第 2 週	保育内容の変遷と教育課程
第 3 週	教育課程編成の意義と役割・基本的な考え方
第 4 週	幼児の遊びと学び
第 5 週	教育要領と教育課程の編成（保育内容としての「領域」・総合的な指導）
第 6 週	発達の理解と教育課程の編成
第 7 週	特色ある幼稚園づくりと教育課程の編成
第 8 週	指導計画の作成の手順 ①
第 9 週	指導計画の作成の手順 ②
第 10 週	幼稚園における教育課程編成の実際
第 11 週	保育所における保育計画 ①
第 12 週	保育所における保育計画 ②
第 13 週	現代社会と保育内容の課題
第 14 週	さまざまな保育課題と保育内容
第 15 週	現代の保育内容と実践のあり方について

《学科教育科目》

科目名	保育内容・人間関係				
担当者名	小原 義子				
授業方法	演習	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

人への愛情や信頼感、自立と協同の態度及び道徳性の芽生えを培うようにする教育目標に向け、乳幼児期における人とのかかわる力を養う保育について学ぶ。
 内容については、具体的な事例を通して、乳幼児期の特徴を理解し、発達の課題に即したよりよい援助のあり方を探り、保育者としての実践力を身につけていく。
 保育所保育指針・幼稚園教育要領の領域「人間関係」に示されている「ねらい」及び「内容」などの具体的理解をする。

《授業の到達目標》

乳幼児期における人とのかかわる力を養う保育の内容について知る。

《テキスト》

改訂『子どもと人間関係』人とかかわりの育ち 大場牧夫・大場幸夫・民秋 言 共著（萌文書林）
 『幼稚園における道徳性の芽生えを培うための事例集』 文部科学省（ひかりのくに株式会社）

《参考文献》

『幼稚園教育要領』『保育所保育指針』
 『新しい幼児教育を学ぶ人のために』 岩田純一・河嶋喜矩子 世界思想社

《成績評価の方法》

授業態度（40%）、筆記試験（60%）で評価する

《授業時間外学習》

- ・自分自身の人間関係について考えておくこと
- ・実習現場において、幼児の人間関係を読み取り学習しておくこと

《備考》

演習に関する課題や資料については、その都度提示する。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	授業のねらいと概要・到達目標・評価についての理解
第 2 週	人間関係について（領域・人間関係の内容理解）Ⅰ =幼児教育の基本と人間関係のねらい=
第 3 週	人間関係について（領域・人間関係の内容理解）Ⅱ =人間関係の内容=
第 4 週	人間関係について（領域・人間関係の内容理解）Ⅲ =人間関係の内容の取り扱い=
第 5 週	子どもにとっての家族 =人間関係のはじまり=
第 6 週	集団生活における人とかかわりの育ち =依存から自立・そして自律へ=
第 7 週	入園当初の子どもとの人間関係
第 8 週	人とかかわりの育ちと言葉
第 9 週	基本的生活習慣と人間関係
第 10 週	友だちとかかわり
第 11 週	子どもにとっての地域・保育施設
第 12 週	道徳性の芽生えを培う保育
第 13 週	実践より人間関係を探る
第 14 週	保育カリキュラムと実践
第 15 週	まとめ・理解度の確認（試験）

《学科教育科目》

科目名	保育内容・言葉				
担当者名	徳永 満理				
授業方法	演習	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

乳幼児の言葉の発達とその獲得のみちすじを学習し、領域「言葉」のねらい、及び、内容について理解し、保育者として、その指導について学ぶ。

乳幼児は日常の生活の中で、大人との関わりを通して言葉を獲していく。その言葉を使ってものを認識し、想像力や創造力を育てていく。その指導方法について、具体的な事例を通して学ぶ。

《授業の到達目標》

言葉を育てる文化財である絵本や紙芝居、童話、ペープサートなどを創ったり、実際に使って、保育者自身の言葉の感覚をみがき、幼稚園・保育所（園）における「言葉」に対する位置づけを理解する。

言葉の機能について理解し、乳幼児の言葉の獲得のプロセスに対応した言葉指導について理解する。

《テキスト》

『保育内容・言葉』第2版 阿部明子編著（建帛社）

『幼稚園教育要領』『幼稚園教育要領解説書』平成20年10月版

『保育所保育指針』『保育所保育指針解説書』平成20年告示

《参考文献》

『絵本で育つ子どものことば』 徳永満理著（アリス館）

《成績評価の方法》

テスト（60％） 絵本づくり（20％）

レポート提出・授業内発表（出席日数も含む）（15％）

授業中の態度（5％）

《授業時間外学習》

手づくり絵本の作成

絵本の読み聞かせ（全員実施）のための選書と練習

《備考》

正当な理由のない欠席、遅刻は厳重にチェックする。

授業中の飲食・携帯電話及び私語は厳禁。

提出物の期限は厳守する。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	オリエンテーション ○講義の概要 ○履修上の諸注意 ○授業の進め方 領域「言葉のねらいと内容」 ○幼稚園指導要領 ○保育所保育指針
第 2 週	ことばの持つ機能について
第 3 週	子どもの発達とことば獲得のメカニズムと特徴① 第1期（出生から約1か月間） 演習 絵本の選書と読み聞かせ
第 4 週	子どもの発達とことば獲得のメカニズムと特徴② 第2期（生後1か月から9か月まで） 演習 絵本の選書と読み聞かせ
第 5 週	子どもの発達とことば獲得のメカニズムと特徴③ 第3期（生後8、9か月から1歳半頃まで） 演習 絵本の選書と読み聞かせ
第 6 週	子どもの発達とことば獲得のメカニズムと特徴④ 第4期（1歳半頃から2歳代） 演習 絵本の選書と読み聞かせ
第 7 週	子どもの発達とことば獲得のメカニズムと特徴⑤ 第5期（3歳から4歳） 演習 絵本の選書と読み聞かせ
第 8 週	子どもの発達とことば獲得のメカニズムと特徴⑥ 第6期（5歳から6歳）
第 9 週	文化財とのかかわり ①見たり、聞いたり、読んだり、演じたりする文化財の意味について お話し、紙芝居について 演習 紙芝居の演じ方
第 10 週	文化財とのかかわり ②絵本の読み聞かせの意味とその選書の仕方、読み聞かせの仕方について 演習 絵本の選書と読み聞かせ
第 11 週	文化財とのかかわり ③遊びの内容が文化財となるもの 劇遊び、ことば遊びなどについて
第 12 週	子どもの生活とことば指導 聞くこと、考えること、表現すること①
第 13 週	子どもの生活とことば指導 聞くこと、考えること、表現すること②
第 14 週	手づくり絵本の発表会
第 15 週	授業のまとめ

《学科教育科目》

科目名	保育内容・表現Ⅱ				
担当者名	谷内 繁子				
授業方法	演習	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

感性と表現に関する領域「表現」の造形的分野において、各自の理解を深めていくとともに豊かで柔軟な感性を磨き、保育の場面での実践力を身につける。また技法を実感しながら、新しい発見、くふうするようにして、自分の表現力を豊かにする。

《授業の到達目標》

- 保育所保育指針、幼稚園教育要領の領域「表現」に示された「ねらい」および「内容」の理解を深める。
- 幼児の「表現活動」を総合的に引き出し、柔軟に受け止めることのできる保育者としての感性を養う。
- 豊かな造形的表現を引き出すための具体的な教材研究を行う。

《テキスト》

『保育所保育指針解説書』文部科学省、フレーベル館、2008
 『幼稚園教育要領解説』文部科学省、フレーベル館、2008

《参考文献》

『演習保育内容表現』金健他、建帛社、2009
 『保育内容造形表現の探求』黒川健一編著、相川書房、1997
 『保育内容表現』花原幹夫編著、北大路書房、2009

《成績評価の方法》

- 定期試験 60%
- 授業や演習への参加意欲と態度 20%
- レポート課題等への提出物 20%

《授業時間外学習》

- 予習の方法
 テキストの指定箇所を読んでください。また、適宜課題を出すので、その課題をやってきてください。
- 復習の方法
 授業内容を再確認し、不明な点は質問するなり自分で調べるなりしてください。

《備考》

- 授業に関する資料と演習課題は授業時に指示します。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	領域「表現」が意味するもの：領域「表現」のねらいと内容
第 2 週	幼児の造形的表現の特性とその援助
第 3 週	造形的な感性と表現の育つ基礎：体験への導入、体験、活動の意味 演習「古新聞紙を使って」
第 4 週	造形的な感性と表現の育つ基礎：ぬたくり、ぬたくりの意味
第 5 週	造形的な感性と表現の育つ基礎：探求、創意・工夫 演習「空箱を使って」
第 6 週	造形的な感性と表現の育つ基礎：イメージを形に 演習「手作り紙芝居の作成」
第 7 週	造形的な感性と表現の育つ基礎：イメージを形に 演習「手作り紙芝居の完成と実演」
第 8 週	幼児の造形的表現へのアプローチ：イメージの誕生
第 9 週	造形的な感性と表現の育つ基礎：表現意欲、環境とのかかわり、人とかかわり
第 10 週	造形表現の理解：描画能力の発達、製作の発達段階
第 11 週	造形表現の特質：視覚、イメージ、表現、いろいろな画材、材料での表現 演習「画材・材料を使っての表現」
第 12 週	保育者の役割と援助：環境構成のポイント、造形活動への誘い、日常生活に関する配慮 演習「身近な素材を使っての表現」
第 13 週	保育者の役割と援助：指導計画作成、指導方法
第 14 週	保育における造形の変遷：造形教育センターの理念と実践
第 15 週	まとめ：保育者の役割と援助：「生活発表会」における造形表現の計画

《学科教育科目》

科目名	保育方法論				
担当者名	福田 規秀				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

保育のあり方や具体的な課題を、事例等との関連の中でともに考え理解を深めていく。そして子どもたちが充実し、しかもその時期にふさわしい園生活を送れるような保育環境や保育内容のあり方について、学生間で意見を出し合い、それを実践に結びつける方策について考察を進めていく。

《授業の到達目標》

主体的に活動する子どもを援助し、子どもと一緒に保育を創る方法について、過去の知見や事例に触れながら考察する中で、保育方法についての基本的な考え方と自分なりの実践への手がかりを探索する。学生諸君はこの過程の中で、自らの子ども観、保育観を向上させ、実習で得た課題へのヒントを見いだすことが出来るはずである。

《テキスト》

『保育方法論』山本和美編著（樹村房 2002）

《参考文献》

『専門家の知恵』ドナルド・ショーン著 佐藤学・秋田喜代美訳（ゆみる出版 2005）

『マインドストーム』シーモア・ペパート著 奥野貴世子訳（未来社 1995）

『幼稚園教育要領解説』文部科学省（フレーベル館 2008）

『幼稚園教育指導資料第3集 幼児理解と評価』文部科学省（チャイルド本社 2005）

『幼稚園教育指導資料第4集 一人一人に応じる指導』文部科学省（フレーベル館 2006）

その他授業中随時紹介する。

《成績評価の方法》

受講態度や課題提出物等（20%）と筆記試験（80%）の総合評価。課題の提出は期限内でお願いします。

授業回数の1/3を超える欠席者は成績評価の対象とならない。

《授業時間外学習》

講義終了時に次回講義の予告を行うので、教科書等の該当箇所を熟読のこと。

学びにはリフレクションが重要です。よって講義内容を自分なりの方法でノートにまとめておくこと。

適宜課題を出すので真面目に取り組んでください（例えば実習で出会った遊具についてのレポート、小さい頃に居心地のよかった場所についてのイメージ表現やメディアを駆使した課題の提出等）。

《備考》

全体の授業計画については、授業の進行状況に応じて適宜変更することがある。

保育原理1Aで購入した『最新保育資料集』『幼稚園教育要領解説』『保育所保育指針解説書』を持参のこと。

授業への積極的な参加（質疑応答等）をのぞむ。逆に授業進行や周囲への迷惑行為は厳禁である。

子どもとメディアについて柔軟な思考で対応できるよう情報を少しでも自分で収集しておくこと。講義に持参した遊具は積極的に触ってください。

重ねて保育者になるにふさわしい出席・受講態度・事前準備を期待する。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	授業のオリエンテーション、保育方法とは
第 2 週	保育方法とは—幼稚園教育要領・保育所保育指針における保育の方法
第 3 週	保育方法とは—基本理念
第 4 週	幼児の発達と保育方法
第 5 週	環境による保育
第 6 週	幼児の生活・遊びと保育
第 7 週	幼児の生活・遊びと保育
第 8 週	保育形態
第 9 週	保育の計画と実践
第10週	幼児理解と保育方法
第11週	幼児理解と保育方法
第12週	保育の記録をどう生かすか
第13週	幼児教育・保育に活かす情報メディア
第14週	幼児教育・保育に活かす情報メディア
第15週	まとめ・筆記試験

《学科教育科目》

科目名	乳児保育 I				
担当者名	徳永 満理				
授業方法	演習	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	1年・I期

《授業のねらい及び概要》

保育所・乳児院における「乳児保育」を学ぶ。

児童福祉法、母子保健法などにおいて、乳児は「満一才に満たない者」と定義されているが、ここでは0、1、2歳児の発達と保育について学ぶ。

乳児保育の歴史から現状・課題も含め、保育所・乳児院の役割と保育者の役割並びに乳児保育に必要な理論、知識、技術を学ぶ。

《授業の到達目標》

○0歳児（出生から）から2歳児（3歳半頃まで）の子どもの発達を理解する。

○乳児保育の歴史と役割を理解し、乳児保育の今日的な意義を考察する。

○乳児保育の保育内容について、実技を含めて理解する。

《テキスト》

『乳児の保育新時代』（ひとなる書房）

《参考文献》

『保育所保育指針』

『保育福祉小六法』

《成績評価の方法》

定期試験（70%）、課題提出（作品・レポート）（20%）、出席点・授業中の態度（10%）

《授業時間外学習》

手づくりのおもちゃなどの作成を提起する。

乳児への読み聞かせのための絵本を選書し、読み方の練習をしてくる。

《備考》

演習科目につきクラス開講が原則である。

遅刻、欠席、授業態度等の評価の対象とする。

講義内容を参考にしレポート提出等あり。提出期日を守ること。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	オリエンテーション 乳児の概念。乳児保育の概念。 ビデオ“赤ちゃんからのメッセージ”
第 2 週	①乳児保育の歴史と現状 ②女性労働と乳児保育の関わり ③乳児保育への期待と課題
第 3 週	乳児の発達（1） 新生児期 0歳児前半 母子関係の形成と人間らしさの発見
第 4 週	乳児の発達（2） 0歳児後半 乳児の発達のみちすじと特徴
第 5 週	乳児の発達（3） 1歳児 1歳児の発達のみちすじと特徴（1歳半の節）
第 6 週	乳児の発達（4） 2歳児 2歳児の発達のみちすじと特徴
第 7 週	0歳児の生活と保育者の関わり 食事、排泄、睡眠、衣生活、保健等
第 8 週	1、2歳児の生活と保育者の関わり 基本的生活習慣の自立
第 9 週	0、1、2歳児のあそびと保育者の関わり あそびいろいろ
第 10 週	あそびの実践① 手づくりおもちゃの作成、絵本の読み聞かせ
第 11 週	あそびの実践② 散歩・マップづくり
第 12 週	乳児保育と計画① ディリープログラム 指導計画 保育計画
第 13 週	乳児保育と計画② 保育形態と保育の環境構成
第 14 週	家庭との連携 保護者への援助、家庭・地域との連携の方法、地域の保育センターとしての役割
第 15 週	授業のまとめ

《学科教育科目》

科目名	障害児保育				
担当者名	柳田 洋				
授業方法	演習	単位・必選	1・選	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

障害についての科学的な知識や、発達のすじ道を学ぶことによって、障害がある子どもたちの理解を深めるとともに、発達を保障していく保育場面での援助のあり方について考える。また、発達を支援していくための、健常児との関わり、家庭・社会との連携の大切さについても保育者という実践者の立場から考えていく。

《授業の到達目標》

障害児の発達を保障するために、障害を科学的に理解すると共に、障害児保育の基本的な理念と実践について考えることができる。

《テキスト》

『新版テキスト障害児保育』白石正久・近藤直子・中村尚子編 全障研出版部

《参考文献》

『新版-この子らを世の光に』糸賀一雄著 NHK 出版
『発達の扉 下 障害児の保育・教育・子育て』白石正久著 かもがわ出版
『多動症の子どもたち』太田昌孝著 大月書店 その他、授業中に適宜紹介する。

《成績評価の方法》

定期試験（テキスト・ノート等持ち込み可）（50%）。適宜、レポート等の提出（50%）を課す。
出席状況・授業態度を勘案する。

《授業時間外学習》

教科書の指定箇所をよんでおくこと。

《備考》

毎時間、出席表（感想・質問等を記入）の提出をもって出席を確認する。
提出物の期限は厳守し、返却されたものについては配布資料等とともにファイルしておくこと。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	障害児保育のあゆみと現状・課題
第 2 週	障害と発達のすじ道
第 3 週	さまざまな障害の理解①知的発達の障害
第 4 週	さまざまな障害の理解②情緒・社会性の障害
第 5 週	さまざまな障害の理解③身体・運動面の障害
第 6 週	さまざまな障害の理解④視覚・聴覚など感覚の障害
第 7 週	さまざまな障害の理解⑤医療的ケアを必要とする障害
第 8 週	障害児保育について考える①知的発達の障害
第 9 週	障害児保育について考える②情緒・社会性の障害
第 10 週	障害児保育について考える③身体・運動面の障害
第 11 週	障害児保育について考える④視覚・聴覚など感覚の障害
第 12 週	障害児保育について考える⑤医療的ケアを必要とする障害
第 13 週	発達を支援する保育者として
第 14 週	就学に向けて
第 15 週	まとめ

平成 21 年度 (2009 年度) 入学者

カリキュラム年次配当表

保育科第一部 平成21年度（2009年度）入学者対象

授 業 区 分	授 業 科 目 の 名 称	授 業 方 法	単 位 数		幼 稚 園 教 諭 二 種 免 許	保 育 士 資 格	学 年 配 当 (<small>数字は週当たり授業時間</small>)				備 考
			必 修	選 択			1 年		2 年		
							I	II	I	II	
学	音楽教育A	演習	1				2				
	音楽教育B	演習		1	◆	○		2			
	音楽教育C	演習		1		○			2		
	音楽教育D	演習		1		○				2	
	器楽A	演習		1	◆	●	2				
	器楽B	演習		1	◆	○		2			
	造形A	演習	1				2				
	造形B	演習		1	◆	○		2			
	幼児体育A	演習	1				2				
	幼児体育B	演習		1	◆	○		2			
科	算数	講義		2	◇						不開講
	生活概論	講義		2	◇						不開講
	小児保健A	講義		2		●	2				
	小児保健B	講義		2		●		2			
	小児保健実習	実習		1		●			2		
	小児栄養	演習		2		●			2		☆
	精神保健	講義		2		●				2	
	家族援助論	講義		2		●				2	
	社会福祉	講義	2						2		
	社会福祉援助技術	演習		2		●				2	☆
教	児童福祉	講義		2		●	2				
	教育原理	講義		2				2			
	保育原理ⅠA	講義		2			2				
	保育原理ⅠB	講義		2		●				2	
	保育原理Ⅱ	講義		2		○				2	
	養護原理Ⅰ	講義		2		●		2			
	養護原理Ⅱ	講義		2		○				2	
	教育実習	実習		5	◆			5			
	保育実習Ⅰ	実習		5		●	5				
	保育実習Ⅱ	実習		2		●			2		
育	保育実習Ⅲ	実習		2							不開講
	教育心理学	講義		2	◇	●			2		
	発達心理学	講義	2				2				
	児童心理学	講義		2	◆	○		2			
	青年心理学	講義		2		○				2	
	臨床心理学	演習		2		○		2			☆
	教育制度論	講義		2	◆				2		
	教師論	講義	2							2	
	保育課程総論	講義		2			2				
	保育内容・健康	演習		2	◆	●			2		☆
目	保育内容・人間関係	演習		2	◆	●		2			☆
	保育内容・環境	演習		2	◆	●			2		☆
	保育内容・言葉	演習		2	◆	●		2			☆
	保育内容・表現Ⅰ	演習		2	◆	●			2		☆
	保育内容・表現Ⅱ	演習		2	◆	●		2			☆

カリキュラム年次配当表

保育科第一部 平成21年度（2009年度）入学者対象

授業科目の区分	授業科目の名称	授業方法	単位数		幼稚園教諭二種免許	保育士資格	学年配当(数字は週当たり授業時間)				備考
			必修	選択			1年		2年		
							I	II	I	II	
学科教育科目	保育方法論	講義		2	◆		2				
	養護内容	演習		1		●			2		
	乳児保育Ⅰ	演習		2		●	2				☆
	乳児保育Ⅱ	演習		2		○				2	☆
	障害児保育	演習		1		●		2			
	教育相談	講義		2	◆					2	
	総合演習	演習		2	◆	●				2	☆

(注意)

- ◆印は、幼稚園教諭二種免許取得のための必須科目を表す。
- ◇印は、幼稚園教諭二種免許取得のための選択科目を表す。
- 印は、保育士資格取得のための必須科目を表す。
- 印は、保育士資格取得のための選択科目を表す。

※備考欄の☆は、学則第23条第1項第2号の但書に規定する授業科目を表す。

《学科教育科目》

科目名	音楽教育C				
担当者名	中島 龍一				
授業方法	演習	単位・必選	1・選	開講年次・開講期	2年・I期

《授業のねらい及び概要》

幼児教育者として必要な音楽の基礎知識と技術力を高めるために、幅広い音楽表現の研究をする中で、保育現場に必要な様々な応用力を身につける。

《授業の到達目標》

保育の現場で求められる望ましい保育者となるためには、活動の結果や技術面ばかりに目を向けるのではなく、子どもが表現しようとする意欲を温かく受け止め、表現する喜びや感動する心を育てていかなければならない。

そのために「音楽教育C」において、1年次に習得した音楽の基礎を基に、更に広げていく研究をする。また、コード奏法による子どもの歌をできるだけ多くマスターする。

《テキスト》

『うたのメルヘン』伊藤嘉子・中島龍一 編著（共同音楽出版社）

『おんがく玉手箱』伊藤嘉子・中島龍一 編著（共同音楽出版社）

『すいかとかぼちゃのロックンロール』伊藤嘉子・中島龍一 編著（共同音楽出版社）

《参考文献》

1年次で使用したテキスト

『子どもの歌から広がる音楽表現』（伊藤嘉子・中島龍一他 編著／共同音楽出版社）

『手あそび歌あそび60』（伊藤嘉子 編著／音楽之友社）

『手話によるメッセージソングベスト25』（伊藤嘉子 編著／音楽之友社）

その他必要に応じて印刷物を配布する。

《成績評価の方法》

1. 授業欠席回数が授業実施回数の3分の1以上欠席した者には単位を与えない。
2. 平常の授業態度や課題に取り組む意欲を重視し、個性ある表現力を評価の対象とする。
3. 自分の音楽能力を客観的に把握し、自分に足りない能力を開発しようとする積極的な態度も考慮する。
4. 音楽表現（40%）、弾きうたい（30%）、授業への取り組む姿勢（30%）で評価。

《授業時間外学習》

使用テキストの指定箇所を読み、練習しておくこと。

授業後、おこなった実践をより自身のものとするための練習をすること。

《備考》

講義室の使用上の注意事項は必ず守ること。特に飲食物の持ち込み、携帯電話の使用禁止。

鍵盤楽器やその他楽器使用における取扱いの注意事項について厳守すること。

授業終了時には、次の使用者のために清潔を常に心掛けること。

将来保育者となるための常識を心し、言葉遣い、礼儀、身なり等にも配慮して受講すること。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第1週	I期15回の授業内容の説明と使用するテキストについての説明。授業での初めのテーマソングを決めてうたう。
第2週	「うたのメルヘン」「すいかとかぼちゃのロックンロール」から、できる限り多くの歌をうたう。／ドラムジカへの準備（1）
第3週	「うたのメルヘン」「すいかとかぼちゃのロックンロール」から、できる限り多くの歌をうたう。／絵描き歌（1）／ドラムジカへの準備（2）
第4週	「うたのメルヘン」「すいかとかぼちゃのロックンロール」から、できる限り多くの歌をうたう。／絵描き歌（2）／ドラムジカへの準備（3）
第5週	ドラムジカ研究発表会
第6週	「うたのメルヘン」「すいかとかぼちゃのロックンロール」から、コード奏法による弾きうたいの実践。／音楽身体表現（1）
第7週	「うたのメルヘン」「すいかとかぼちゃのロックンロール」から、コード奏法による弾きうたいの実践。／音楽身体表現（2）
第8週	「うたのメルヘン」「すいかとかぼちゃのロックンロール」から、コード奏法による弾きうたいの実践。／音楽身体表現（3）
第9週	音楽身体表現研究発表会
第10週	「うたのメルヘン」「すいかとかぼちゃのロックンロール」から、できる限り多くの歌をうたう。／紙工作（1）
第11週	「うたのメルヘン」「すいかとかぼちゃのロックンロール」から、できる限り多くの歌をうたう。／紙工作（2）
第12週	「うたのメルヘン」「すいかとかぼちゃのロックンロール」から、コード奏法による弾きうたいの実践。／絵本作成（1）
第13週	「うたのメルヘン」「すいかとかぼちゃのロックンロール」から、コード奏法による弾きうたいの実践。／絵本作成（2）
第14週	「うたのメルヘン」「すいかとかぼちゃのロックンロール」から、コード奏法による弾きうたいの実践。／絵本作成（3）
第15週	手作り絵本研究発表会と音楽教育Cの総まとめ

《学科教育科目》

科目名	音楽教育D				
担当者名	中島 龍一				
授業方法	演習	単位・必選	1・選	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

幼児教育者として必要な音楽の基礎知識と技術力を高めるために、幅広い音楽表現の研究をする中で、保育現場に必要な様々な応用力を身につける。

《授業の到達目標》

保育の現場で求められる望ましい保育者となるためには、活動の結果や技術面ばかりに目を向けるのではなく、子どもが表現しようとする意欲を温かく受け止め、表現する喜びや感動する心を育てていかなければならない。

そのために「音楽教育C」において、1年次に習得した音楽の基礎を基に、更に広げていく研究をする。また、コード奏法による子どもの歌をできるだけ多くマスターする。

《テキスト》

- 『うたのメルヘン』伊藤嘉子・中島龍一 編著（共同音楽出版社）
- 『おんがく玉手箱』伊藤嘉子・中島龍一 編著（共同音楽出版社）
- 『すいかとかぼちゃのロックンロール』伊藤嘉子・中島龍一 編著（共同音楽出版社）

《参考文献》

- 1年次で使用したテキスト
 - 『子どもの歌から広がる音楽表現』（伊藤嘉子・中島龍一他 編著／共同音楽出版社）
 - 『手あそび歌あそび60』（伊藤嘉子 編著／音楽之友社）
 - 『手話によるメッセージソングベスト25』（伊藤嘉子 編著／音楽之友社）
- その他必要に応じて印刷物を配布する。

《成績評価の方法》

1. 授業欠席回数が授業実施回数の3分の1以上欠席した者には単位を与えない。
2. 平常の授業態度や課題に取り組む意欲を重視し、個性ある表現力を評価の対象とする。
3. 自分の音楽能力を客観的に把握し、自分に足りない能力を開発しようとする積極的な態度も考慮する。
4. 音楽表現（40%）、弾きうたい（30%）、授業への取り組む姿勢（30%）で評価。

《授業時間外学習》

使用テキストの指定箇所を読み、練習しておくこと。
授業後、おこなった実践をより自身のものとするための練習をすること。

《備考》

講義室の使用上の注意事項は必ず守ること。特に飲食物の持ち込み、携帯電話の使用禁止。
鍵盤楽器やその他楽器使用における取扱いの注意事項について厳守すること。
授業終了時には、次の使用者のために清潔を常に心掛けること。
将来保育者となるための常識を心し、言葉遣い、礼儀、身なり等にも配慮して受講すること。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第1週	I期15回の授業内容の説明と使用するテキストについての説明／「うたのメルヘン」「すいかとかぼちゃのロックンロール」から、できる限り多くの歌をうたう。
第2週	「うたのメルヘン」「すいかとかぼちゃのロックンロール」から、できる限り多くの歌をうたう。／紙工作（3）
第3週	「うたのメルヘン」「すいかとかぼちゃのロックンロール」から、できる限り多くの歌をうたう。／紙工作（4）
第4週	「うたのメルヘン」「すいかとかぼちゃのロックンロール」から、コード奏法による弾きうたいの実践。／手作りゲーム（1）
第5週	「うたのメルヘン」「すいかとかぼちゃのロックンロール」から、コード奏法による弾きうたいの実践。／手作りゲーム（2）
第6週	「うたのメルヘン」「すいかとかぼちゃのロックンロール」から、コード奏法による弾きうたいの実践。／手作りゲーム（3）
第7週	グループによる歌研究発表会
第8週	楽器の知識と使用方法についての説明／器楽アンサンブル（1）／合唱練習（1）
第9週	器楽アンサンブル（2）／合唱練習（2）
第10週	器楽アンサンブル（3）／合唱練習（3）
第11週	器楽アンサンブル研究発表会
第12週	合唱練習（4）
第13週	合唱練習（5）
第14週	合唱練習（6）
第15週	合唱研究発表会と音楽教育Dの総まとめ

《学科教育科目》

科目名	小児保健実習				
担当者名	宮崎 千尋				
授業方法	実習	単位・必選	1・選	開講年次・開講期	2年・I期

《授業のねらい及び概要》

保育士は、子どもの発育・発達状態、健康状態を正しく把握し、保育中の子どもの健康を守りつつ保育する責任がある。「小児保健」で学んだ「小児を心身の病気から守り、健全に発育させる」という理論をふまえ、保育所・乳児院などの児童福祉施設、あるいは幼稚園その他保育の場において、これを実践できる応用能力と技術を習得することを目指す。

《授業の到達目標》

1. 小児の生理的な特徴を理解し、その観察方法や測定技術が習得できる。
2. 日課に必要な養護技術が習得できる。
3. 事故防止と安全教育の行い方を理解し、説明出来る。
4. 乳幼児看護および救命処置と応急手当技術が習得出来る。

《テキスト》

「小児保健実習」 佐藤益子 編著 みなみ書房

《参考文献》

「小児看護実習ガイド」 筒井真優美 監修 照林社
 「小児保健の基礎知識」 日本保育園保健協議会編集 日本小児医事出版社

《成績評価の方法》

定期試験 70% (テキスト及び配布資料の持ち込みは可とする)
 授業内実習 30% (実習への参加度および実習試験によって評価する)
 ※授業実施回数の1/3以上を欠席した者は成績評価の対象とならず単位は与えない。

《授業時間外学習》

- ・予習、復習の方法

実習には、前回の授業内容を復習し、実習の概要・必要物品・手順について理解を深め、臨んで下さい。

《備考》

- ・授業内実習が主になるので出席して経験することに重点をおきます。
- ・授業には実習、実技にふさわしい服装で臨み、指示されたことは守り、事故防止に努めて下さい。
- ・実習の準備、終了後の後片づけは協力してきっちりと行うように注意して下さい。
- ・授業時間の1/3を越えた遅刻は、欠席とみなします。
- ・他の学生への迷惑になるような私語等による授業妨害は退室してもらいます。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	小児保健実習の目的・目標・内容、援助技術の基本
第 2 週	小児の健康状態の観察と記録
第 3 週	小児の身体発育と身体測定及び評価 (体重・胸囲・座高・頭囲・下肢長・視力・聴力等) 《実習》
第 4 週	小児の生理機能の測定と評価 (体温・脈拍・呼吸の測定) 小児の精神・運動機能の発達 《実習》
第 5 週	乳幼児の養護 (抱き方・背負い方・睡眠・排泄・食事・清潔の援助・外気浴・あやし方等) 《VTR 視聴・演習》
第 6 週	乳幼児の養護 (抱き方・背負い方・排泄・清潔の援助・食事・外気浴) 《実習》
第 7 週	乳幼児の養護 (身体の清潔: 沐浴) 《実習》
第 8 週	小児の看護 (1) よく起こる症状に対する看護
第 9 週	小児の看護 (2) よく起こる病気に対する看護
第 10 週	乳幼児の事故の現状と応急処置 小児の救急処置 《VTR 視聴》
第 11 週	小児の救急処置 (起きやすい事故の応急処置、心肺蘇生法) 《VTR 視聴・演習》
第 12 週	小児の救急処置 (1) 起きやすい事故の応急処置 《実習》
第 13 週	小児の救急処置 (2) 心肺蘇生法 《実習》
第 14 週	感染予防対策 ・ 危機管理
第 15 週	学習のまとめ

《学科教育科目》

科目名	小児栄養				
担当者名	大西 光子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	2年・I期

《授業のねらい及び概要》

小児期の食生活は、子どもの身体の健康や心の健康に重要な役割を果たしている。小児期に食生活の基礎をきちんと築き、将来の健康につながる正しい食習慣や、望ましい食習慣を身につけることが大切である。子どもの健やかな成長には、栄養と食生活が重要であることを理解し、

- ①体に必要な栄養素の働きを知り、
- ②自分自身が望ましい食生活が実践でき、
- ③子どもの発達段階に適した栄養と食生活に関する知識を習得し、正しい食指導ができる能力を身につける。

《授業の到達目標》

子どもの特性は”発育する”ことである。このことがおとなにみられない特質であり、乳児期から青年期にかけて大きく成長する時期である。

発育には、遺伝的な素因もあるが、肉体の発育には栄養が欠かせない。健康にとって食生活は重要な位置を占めている。栄養素の摂取に過不足が生じ、子どもにも生活習慣病の発症がみられる。

子どもたちに望ましい食生活を身につけさせるためには、栄養や食生活全般にわたる知識の習得が大切である。

子どもの身体の特徴を理解し、栄養に関する知識を学び、子どもの成長発達に適した望ましい食生活が指導出来るよう理解を深める。

《テキスト》

最新小児栄養 第6版 編集 飯塚美和子・桜井幸子・瀬尾弘子・曾根眞理枝 学建書院

《参考文献》

《成績評価の方法》

筆記試験（80％） レポート（20％）

《授業時間外学習》

- ・予習、復習を行うこと。
- ・授業時に配布するプリントを持ち帰り記載し、次回授業に持参すること。

《備考》

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	小児の健康な生活と食生活の意義 ・子どもの食生活の実態 ・食育基本法について
第 2 週	小児の発育・発達 ・発育のようす ・精神・運動機能の発達、そしやく機能の発達、消化吸収機能の発達
第 3 週	栄養に関する基本的知識 ・炭水化物・脂質・たんぱく質の栄養
第 4 週	栄養に関する基本的知識 ・無機質・ビタミンの栄養
第 5 週	栄養に関する基本的知識 ・食物の消化 ・栄養素の吸収と代謝
第 6 週	栄養に関する基本的知識 ・食事摂取基準 ・消費エネルギーの計算
第 7 週	栄養に関する基本的知識 ・献立のたて方・調理 ・健康増進のための食生活（食事バランスガイド・食生活指針）
第 8 週	妊娠・授乳期の食生活 ・胎児の発育 ・妊娠期の栄養と食生活
第 9 週	乳児期の食生活 母乳栄養
第 10 週	乳児期の食生活 ・人工栄養・混合栄養 ・離乳食の進め方
第 11 週	幼児期の食生活 ・幼児期の発達の特徴と食事のとり方 ・幼児期栄養の問題点
第 12 週	学童期・思春期の食生活 ・学校給食 ・学童期・思春期の食育 ・日常の食生活の検討
第 13 週	小児期の疾病と食生活 ・各疾患の特徴と症状に応じた食事の与え方
第 14 週	障がいがある小児の食生活 ・障がいの原因となる疾患と食生活 児童福祉施設における食生活 ・児童福祉施設における給食の基本 ・保育所給食 と食育
第 15 週	まとめ

《学科教育科目》

科目名	精神保健				
担当者名	古賀 愛人				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

保育に携わるうえで、胎生期から思春期に至る発達と精神保健に関する基本的知識を学び、こころの健康保持増進とこころの不健康の予防に役立つようになることをめざします。

《授業の到達目標》

- こころの健康・不健康とは何かを説明できる。
- 健全な発達と発達上の問題点を説明できる。
- 子どもの発達障害と問題行動を理解し、その対応ができるようになる。

《テキスト》

改訂3版・保育士養成講座 第4巻
精神保健 改訂・保育士養成講座編纂委員会 社会福祉法人社会福祉協議会 2005

《参考文献》

介護福祉士養成講座⑩
精神保健 福祉士養成講座編集委員会 中央法規出版

《成績評価の方法》

授業中の態度、討論への参加度 20%と定期試験 80%による総合評価。

《授業時間外学習》

シラバス（授業計画）により、テキストを予習しておくことが必要である。

《備考》**《授業計画》**

週	授 業 計 画
第 1 週	保育における精神保健
第 2 週	精神保健 ―こころの発達と健康
第 3 週	胎児期のこころの発達と精神保健活動
第 4 週	乳児期の発達と精神保健活動
第 5 週	幼児期の発達と精神保健活動
第 6 週	学童期・思春期の発達と精神保健活動
第 7 週	乳幼児精神医学と発達障害
第 8 週	ことばの障害
第 9 週	多動性障害・強迫性障害
第 10 週	習癖障害
第 11 週	子どものうつ病・睡眠障害
第 12 週	登園拒否・児童虐待
第 13 週	保育所・地域における精神保健活動
第 14 週	障害児保育
第 15 週	まとめ講義

《学科教育科目》

科目名	家族援助論				
担当者名	若林 宏子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

保育士資格の法定化（2001年）にともない、2002年から保育士養成課程も改正されることになり「家族援助論」が創設されることになった。保育所の社会的役割について、今日、子育てにおける家庭と社会のパートナーシップが重視されている。保育所はじめ児童福祉施設において地域子育て支援の機能は、保育士の職務の内容について拡大と転換を求められている。近年の著しい社会的変化が家族に及ぼしている動向や関連性を理解し、ソーシャルワークを担うこととなった家族援助のあり方を学ぶことを目的とする。

《授業の到達目標》

家族援助の必要性とその背景を理解し、あり方や援助の実際について説明できる。

《テキスト》

『家族援助論』（全国社会福祉協議会）

《参考文献》

『子育て支援の現在』垣内国光・桜谷真理子編著（ミネルヴァ書房）
『子どもの発達と子育て・子育て支援』丸山美和子（かもがわ出版）
『家族援助論』松村和子、澤江幸則、神谷哲司（建帛社）
『保育福祉小六法』『保育所保育指針』

《成績評価の方法》

課題レポート（30%）、定期試験（50%）、授業内容の理解を求めするために授業後適宜実施する小テスト（20%）

《授業時間外学習》

課題にそったレポートのための調査、次回の授業内容を知らせテキストを読んでおくこと

《備考》

受講態度や私語に関する注意をする。適宜VTRなどを使用し、理解が深まるよう配慮する。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	オリエンテーション・なぜ家族援助が必要なのか
第 2 週	家族とは何か
第 3 週	家族援助とは何か
第 4 週	家族をとりまく社会的状況と家族関係
第 5 週	家族をとりまく社会的状況と家族関係
第 6 週	家族をとりまく社会的状況と家族関係
第 7 週	家族援助論
第 8 週	家族援助論
第 9 週	家族援助論
第 10 週	家族援助論
第 11 週	家族援助の方法
第 12 週	家族援助の方法
第 13 週	家族援助の実際
第 14 週	家族援助の実際
第 15 週	家族援助論まとめ

《学科教育科目》

科目名	社会福祉				
担当者名	藤野 ゆき				
授業方法	講義	単位・必選	2・必	開講年次・開講期	2年・I期

《授業のねらい及び概要》

現代社会における社会福祉の意義・理念について学び、社会福祉の歴史のあゆみを通して今日までの社会福祉の発展のプロセスを理解する。さらに、社会福祉の法体系、制度及び行財政の仕組みを知り、社会福祉サービス体系における公私の役割や活動についても詳しく学ぶ。社会福祉の価値観や倫理性および福祉専門職の役割等についても理解を深め、子どもに対する専門職(保育士)としての資質を高める。

《授業の到達目標》

社会福祉の意義、理念について考えることができる。
社会福祉の法制度、体刑を踏まえた上で、社会福祉援助技術を実行できる。

《テキスト》

新 保育ライブラリ 保育・福祉を知る 社会福祉 編著者 片山義弘 李木明德
北大路書房 2009年

《参考文献》

必要に応じて随時紹介する。

《成績評価の方法》

毎回の講義ごとの小レポート 40%、 試験 60%

《授業時間外学習》

次回講義予定範囲の予習し、受講に対する考えをまとめておくこと。

《備考》

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	現代社会と社会福祉の意義①社会福祉の理念と概念 社会福祉の対象と主体
第 2 週	現代社会と社会福祉の意義②社会福祉のニーズの変容
第 3 週	社会福祉専門職 社会福祉従事者の概要 専門性と倫理 関連する専門職
第 4 週	社会福祉の法体系と実施体系①社会福祉の実施体系 社会福祉の各分野
第 5 週	社会福祉の法体系と実施体系②実施体制と公私の役割
第 6 週	社会福祉の法体系と実施体系③社会福祉の財政と費用負担
第 7 週	社会福祉の動向①高齢者福祉
第 8 週	社会福祉の動向②障害者福祉
第 9 週	社会福祉の動向③ボランティア活動
第 10 週	社会福祉援助技術①社会福祉援助技術の発展
第 11 週	社会福祉援助技術②社会福祉援助技術の形態
第 12 週	社会福祉援助技術③社会福祉援助技術の動向
第 13 週	利用者保護制度の概要①利用者保護制度の目的と仕組み
第 14 週	利用者保護制度の概要②第三者評価と情報提供
第 15 週	まとめ

《学科教育科目》

科目名	社会福祉援助技術				
担当者名	丸目 満弓				
授業方法	演習	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

社会福祉援助(ソーシャルワーク)を行うにあたっては、知識はもちろんのこと、必要となる態度や求められる姿勢を身につけることも大切である。
授業では、講義方式とロールプレイやワークなどを取り入れた演習方式を組み合わせることにより、頭で理解すると同時に体感することをめざす。

《授業の到達目標》

- ① 社会福祉援助技術の基本的な知識を身につける。
- ② 保育場面において社会福祉援助技術がどのように必要とされているかを理解できる。
- ③ 社会福祉援助技術に必要な実践力を身につける。

《テキスト》

特になし。適宜プリントを配布する。

《参考文献》

授業中に適宜紹介する。

《成績評価の方法》

定期試験 50%
毎回講義後に提出するミニレポート 30%、
授業中のワークや適宜出される提出課題への取り組み 20%

《授業時間外学習》

新聞は“生きた教科書”です！例えば世の中が日々どう動いているか、それが保育とどのように関連しているのかを理解するために、新聞に目を通し、各々が興味をもった記事をピックアップして授業に参加してほしいと考えています。詳細はオリエンテーションでお伝えします。

《備考》

授業では受身でなく、自分の頭で考え、それを文字や言葉で人に伝えるという作業が要求されます。ぜひ積極的に参加してください！

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	オリエンテーション
第 2 週	変化する子育て環境と社会福祉援助(ソーシャルワーク)
第 3 週	ソーシャルワークの体系
第 4 週	ソーシャルワークの価値・倫理
第 5 週	ソーシャルワークに必要な知識・技能
第 6 週	ソーシャルワークの展開過程
第 7 週	ソーシャルワークが必要とされる機関・施設と担い手
第 8 週	自己覚知～援助者としての自分を知る～(1)
第 9 週	自己覚知～援助者としての自分を知る～(2)
第 10 週	コミュニケーション技法を身につける(1)
第 11 週	コミュニケーション技法を身につける(2)
第 12 週	面談技術を身につける(1)
第 13 週	面談技術を身につける(2)
第 14 週	総括(1)
第 15 週	総括(2)及び試験

《学科教育科目》

科目名	教育原理				
担当者名	三浦 摩美				
授業方法	講義	単位・必選	2・必	開講年次・開講期	2年・I期

《授業のねらい及び概要》

人間にとってなぜ教育が必要なのか、また教育の意義や目的は何かということについて、漠然とした理解ではなく理論的に理解することができることを目的とする。教育の意義や目的について、現代のさまざまな領域の知見から洞察を深めることで、人間にとっての教育の必要性や役割が理解できるようにする。また、これまでの教育の歴史を知ること、現在の教育のあり方やこれからの教育の課題について考察することができるように努める。

《授業の到達目標》

- ・教育の意義・必要性・役割・目的について、理論的な観点から理解できるようにする。
- ・教育の歴史および理念について、体系的に把握できるようにする。
- ・学習の形態や教育の方法原理を知る。
- ・現代教育の問題と課題について洞察を深めることができるようにする。

《テキスト》

『教育学の基礎と展開』相澤伸幸著、ナカニシヤ出版
他、適宜資料を配布します。

《参考文献》

適宜紹介します。

《成績評価の方法》

平常の出席や受講態度、提出物（50%）、学期末のまとめの課題（50%）で評価する。

《授業時間外学習》

- ・教科書の指定箇所を熟読することで予習・復習を進めるようにする。
- ・授業内で紹介された参考図書や資料も、できる限り調べるようにする。
- ・平常に出された課題に取り組み、期日に提出するようにする。

《備考》

授業中の私語や携帯電話の使用は、厳禁とする。
意欲的な姿勢を期待します。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	教育の必要性和適時性、教育の必要性の根拠について
第 2 週	教育の意味・役割・目的について
第 3 週	西欧における教育の理念と実践の歴史について
第 4 週	古代から中世までの教育理念と実践の歴史
第 5 週	中世の教育理念と実践の歴史
第 6 週	近代および現代の教育理念と実践の歴史
第 7 週	日本における教育の理念と実践の歴史について
第 8 週	明治以前の教育観と教育施設
第 9 週	明治から大正にかけての教育観と教育実践の取り組み
第 10 週	現代の教育観と取り組みの事例
第 11 週	教育方法論の基本原則について
第 12 週	新教育における教育方法論と学習形態について
第 13 週	現代教育の諸問題について
第 14 週	現代教育の課題について
第 15 週	まとめ

《学科教育科目》

科目名	保育原理 I B				
担当者名	福田 規秀				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

保育についての理解が少しでも進むと現実を知り、壁にぶつかるものである。それを乗り越えるのは他の誰でもなく自分である。この講義では挑発的に学生諸君に問題を突きつけつつ、それを自分自身の課題と捉えられよう様々な事例を紹介し、ひとりの人間としてどうそれに向き合っていくかについて考えていく。また他者がどう考えるかを知ることも重要なねらいである。

《授業の到達目標》

保育原理 I Aに引き続き科目である。I Aを基礎的知識として保育の現状と問題をより広範囲に探り、実態の認識を通して保育者として望ましい人間性の育成を目指す。保育者は子どもとのかかわりだけでなく、保護者や地域の人々、同僚という大人とのかかわりも欠かせない。そのことへの自覚、自己改善も大切な目標となる。

《テキスト》

『新・保育原理』一すばらしき保育の世界ー (みらい 2009)

『保育所保育指針解説書』厚生労働省編 (フレーベル館 2008) 両方とも1年次に購入スミ

《参考文献》

『保育者の職能論』田中亨胤他編著 (ミネルヴァ書房 2006)

『親子ストレス』汐見稔幸 (平凡社新書 2000)

『ケアの本質』ミルトン・メイヤロフ 田村真・向野宣之訳 (ゆみる出版 2008)

『21世紀の子育て支援・家庭支援』伊志嶺美津子・新澤誠治 (フレーベル館 2003)

その他授業中に随時紹介する。

《成績評価の方法》

受講態度や課題提出物等 (20%) と筆記試験 (80%) の総合評価。課題の提出は期限内でお願いします。

授業回数の 1/3 を超える欠席者は成績評価の対象とならない。

《授業時間外学習》

講義終了時に次回講義の予告を行うので、教科書等の該当箇所を熟読のこと。

学びにはリフレクションが重要です。よって講義内容を自分なりの方法でノートにしっかりまとめておくこと。

適宜課題を出すので真面目に取り組んでください (例えば自分の望む子育て支援策についてのレポートやネットを利用した情報収集、メディアを駆使したレポート課題の提出等)。

《備考》

全体の授業計画については、授業の進行状況に応じて適宜変更することがある。

法令を見ることも多いので、1年次に購入した『最新保育資料集』や『幼稚園教育要領解説』を必要に応じ持参のこと。

子どもに関する情報を様々なメディアを通じて自分でも収集することに努めること。その一環での講義への事例提供を歓迎する。

最後にまた原理? ?ではなく、今まで学んだことを基に是非自分なりの保育観を考えつつ受講してほしい。また他人の意見を尊重する姿勢も大切である。

受講に際しては、保育者にふさわしい出席・態度・準備を要求する。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	授業のオリエンテーション、保育課程・教育課程についてー計画とは
第 2 週	保育課程・教育課程についてーその実際
第 3 週	計画と評価
第 4 週	子どもの健康と安全ー食育
第 5 週	子どもの健康と安全ー感染症
第 6 週	健康安全と多様な子どもへの対応
第 7 週	多様化する保育ニーズー誰のためのものか?
第 8 週	子育て家庭支援ーなくてはならないもの
第 9 週	子育て家庭支援ーこれから
第 10 週	育ちや学びの連続性ー連携
第 11 週	育ちや学びの連続性
第 12 週	保育者の専門性ー現状
第 13 週	保育者の専門性ー専門性とは
第 14 週	保育の現状と課題ー保育の質の保証
第 15 週	まとめ・筆記試験

《学科教育科目》

科目名	保育原理Ⅱ				
担当者名	三浦 摩美				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

保育施設設立の変遷史を通して保育の役割や意義について理解を深めるとともに、現代保育の現状や課題について考察する。それとともに、保育の基本や特性、何が育つのか、また、何を育てるのかについて、一歩踏み込んだ保育への理解を試みる。

《授業の到達目標》

- ・欧米および日本の保育施設設立の時代的要請と保育に課せられた役割について理解できるようにする。
- ・保育の歴史と現状を理解し、保育の課題についての考察を試みる。
- ・保育の基本や特性について理解し、＜何を＞また＜何が＞「育つ」「育てる」「育む」のかということについて、洞察を深めることができるようにする（視点を持つことができるようにする）。

《テキスト》

柴崎正行編著 『保育原理－新しい保育の基礎－』 同文書院

《参考文献》

諏訪きぬ編著 『現代保育学入門』（改訂新版）フレーベル館

小田豊・押谷由夫編著 『保育と道徳－道徳性の芽生えをいかにほぐむか－』 保育出版社

《成績評価の方法》

平常の出席と受講態度（聞く、読む、発言する、発表する）、提出物などの評価（50%）、および学期末のレポート（50%）で評価する。

《授業時間外学習》

- ・テキストの該当箇所を熟読し、予習や復習を行うこと。
- ・課題を設定して提出していただくことがあります。参考図書などの資料を調べてレポートにまとめる、また、考えを整理してレポートにまとめる、ということができるようにすること。

《備考》

授業中の私語や携帯電話の使用を厳禁とする。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	保育施設の設立と変遷の歴史を通して、保育の役割と意義について理解する
第 2 週	欧米における保育施設の設立と変遷
第 3 週	日本における保育施設の設立と変遷
第 4 週	日本における保育施設の現状と課題
第 5 週	保育の目的と基本について
第 6 週	保育の特性について
第 7 週	幼児の遊びと発達の多様性について
第 8 週	遊びの充実と保育者の関わりについて
第 9 週	保育の過程と子ども理解について
第 10 週	子どもの内面の理解について
第 11 週	何が育ち、何を育てるのかについて
第 12 週	一緒に活動する力、いろいろなものとかかわる力、集中する力
第 13 週	気づき、感じる力、想像し表現する力
第 14 週	判断する力、観察する力、自分や人と対話する力
第 15 週	まとめ－子ども理解と保育活動の基盤について

《学科教育科目》

科目名	養護原理Ⅱ				
担当者名	杉山 貴要江				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

本講義は障がいのある子どもが大人へと成長する過程をひとつの流れとして捉え、その端緒となる就学前にかかわることの多い保育士の役割について、子どもの将来を見据えて考えます。

特に、就学前の発達障がい児への対応、将来地域の中で自立して生活するための社会環境整備と社会資源の開発、保護者を含めた具体的支援方法について、視聴覚教材を活用し学習します。

《授業の到達目標》

就学前児童の集団保育の場でのインクルージョンの推進に伴い、「気になる子」の存在が増加しつつあります。本講義では発達障がい及び知的障がいのある子どもについて理解し、その援助方法を具体的に学習します。そして、子育て支援に関する専門職、保育士の役割についても考えます。

《テキスト》

プリントの配布を予定しています。

《参考文献》

授業中に紹介します。

《成績評価の方法》

授業内課題（授業時間内に課すレポート）（80%）、テスト（20%）で評価します。

《授業時間外学習》

図書館を活用し、紹介した参考図書を読み、レポートの作成に役立ててください。

《備考》

保育実習Ⅰ、Ⅱを修得していることを受講の要件とします。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	子どもの人権の尊重について 本講義の目的と保育士資格との関係性について説明し、授業の基本となる理念、子どもの人権の尊重について考えます。
第 2 週	障がい者の権利条約 2006年12月、国連総会で採択された「障害者権利条約」について理解し、教育の場における「合理的配慮」について考えます。《DVD 視聴》
第 3 週	障がい者福祉の現状 「障害者自立支援法」について理解し、施設での生活から地域社会での生活に向けての取り組みについて考えます。また、企業の知的障がい者雇用の実態を理解し、就学前から始める療育の有用性について考えます。
第 4 週	知的障がい者の福祉的就労 知的障がいのある人が自信を持って働く姿を通して、地域社会の中で生活する意義について考えます。《DVD 視聴》
第 5 週	スウェーデンの知的障がい者福祉の歩み 施設での生活を強いられた知的障がい者が、街の中のグループホームでの生活を獲得するまでの歩みと支援策の現状について学びます。《DVD 視聴》
第 6 週	自閉症の子の子育て 自閉症の子の生活の実際を観察し、その育て憎さと支援の必要性について考えます。また、自閉症スペクトラムについて理解します。《DVD 視聴》
第 7 週	自閉症の子の進路 言葉にならない言葉の存在、借りてきたロボットの中にいる感覚など、自閉症の多様な特徴について理解します。《DVD 視聴》
第 8 週	発達障がいの理解と支援 知的障がい、発達障がいについての定義と特性について学習します。どういった支援があり、保育者はどう関わるのかについて考えます。
第 9 週	発達障がいのある人の人間関係 発達障がいや人間関係が苦手な人のためのソーシャルスキルトレーニングについて学習します。《DVD 視聴》
第 10 週	発達につまづきがある子ども 療育の実際と支援の実際を通して、社会性活力を育てる方法について学習します。《DVD 視聴》
第 11 週	「関わりことば」について 就学前児童の社会性を養う、幅広く活用できる関わりことばについて学習します。《DVD 視聴》
第 12 週	支援ツールの種類と作り方 場面に応じた支援ツールの種類と使い方について学習し、実際の場面を想定して支援ツールを作ってみます。
第 13 週	発達障がいの子を持つ保護者 障がいのある子どもをもつ母親への支援について、保育所で保育士と関わった経験を語る母親の心情を受け止め、考察します。《DVD 視聴》
第 14 週	障がいのある子に対する保育士の姿勢 絵本を題材にして、障がいについての理解を深めるための方法を、幼児クラスを想定して考えます。スウェーデンとわが国の保育所における、保育士の子どもへのかかわり方や基本的考え方の相違についても参考にして考えます。
第 15 週	学習のまとめ 発達障がいについての知識と、障がいのある子どもへの保育士の対応の仕方についてまとめ、卒業後の活動に役立てられるようにします。

《学科教育科目》

科目名	教育実習				
担当者名	三浦 摩美・藤井 恵美子				
授業方法	実習	単位・必選	5・選	開講年次・開講期	2年・I期分

《授業のねらい及び概要》

教育実習に必要な知識、実践技能を総合的に身につける。事前指導においては、実習において学ぶべきことを理解し、実習生として謙虚に、意欲的に取り組むことを知る。事後指導においては、実習で学んだことをふりかえり、保育者としての課題を明確にしなが、より実践的な技能を身につけていく。

《授業の到達目標》

- ・指導計画の立案と計画に基づいた保育のあり方を理解し、実践力を身につける（模擬保育）。
- ・保育実践に必要な教材の準備と教材研究を十分にすること。

《テキスト》

『幼稚園教育要領の解説』
『実習の手引き』
『実習日誌の書き方』（萌文堂書店）
『保育実技』（萌文堂書店）

《参考文献》

『保育とカリキュラム』・『年齢別クラス運営』（ひかりのくに社）他、授業中に紹介します。

《成績評価の方法》

実習園における評価（70%）・授業中に課す提出物、発表内容及び期限厳守、授業態度（30%）を総合的に評価する。

《授業時間外学習》

- ・テキストの指定箇所をあらかじめ熟読しておくようにしてください。
- ・授業ではたくさんの教材・教具を紹介するつもりです。各自、保育に活かせる教材・教具を計画的に収集してください。
- ・適宜課題を出すので、その課題に取り組み、期日に提出するようにしてください。
- ・手遊び、歌、絵本などの教材集を作成します。それらの教材研究を計画的に進めておいてください。
- ・授業内容を再確認し、不明な点は次回の授業で質問したり調べるようにしてください。

《備考》

実習を受けるための資格条件を厳守し、積極的、意欲的に授業に参加すること。正当な理由のない欠席、遅刻、早退については厳重に注意する。実習内規及び要綱にしたがって実習参加の可否を決定する。その他、授業の妨害になることは厳重に対処する。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	幼稚園参加実習について
第 2 週	実習生としての部分実習・研究実習の内容について
第 3 週	幼稚園教育課程・指導計画について（3歳児）
第 4 週	幼稚園教育課程・指導計画について（4歳児）
第 5 週	幼稚園教育課程・指導計画について（5歳児）
第 6 週	指導計画の作成について
第 7 週	指導計画の作成と実際
第 8 週	指導計画の作成と実際
第 9 週	模擬保育
第 10 週	模擬保育
第 11 週	模擬保育
第 12 週	模擬保育
第 13 週	模擬保育による評価と反省
第 14 週	実習ノートの記入の実際
第 15 週	実習ノートの記入の実際

《学科教育科目》

科目名	教育実習				
担当者名	三浦 摩美・藤井 恵美子				
授業方法	実習	単位・必選	5・選	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期分

《授業のねらい及び概要》

教育実習に必要な知識、実践技能を総合的に身につける。事前指導においては、実習生として謙虚に学び、学ぶべきことを理解する。また意欲を持って取り組めるようにする。教材準備、指導内容を十分に自ら準備するように配慮する。事後指導においては、実習をふりかえり、学んだこと、自分自身の課題を明確にし、保育者としての資質向上に意欲を持つ。

《授業の到達目標》

- ・教育実習に必要な態度や行動、幼児指導や学級経営にたずさわる素地を身につける。
- ・保育実践を通して幼児への関わりや保育内容についての理解を深める。
- ・保育者としての立場を理解する。

《テキスト》

- 『幼稚園教育要領の解説』
- 『実習の手引き』
- 『実習日誌の書き方』（萌文堂書店）
- 『保育実技』（萌文堂書店）

《参考文献》

『保育とカリキュラム』・『年齢別クラス運営』（ひかりのくに社）他、授業中に紹介します。

《成績評価の方法》

実習園における評価（70%）・授業中に課す提出物、発表内容及び期限厳守、授業態度（30%）を総合的に評価する。

《授業時間外学習》

- ・テキストの指定箇所をあらかじめ熟読しておくようにしてください。
- ・授業ではたくさんの教材・教具を紹介するつもりです。各自、保育に活かせる教材・教具を計画的に収集してください。
- ・適宜課題を出すので、その課題に取り組み、期日に提出するようにしてください。
- ・手遊び、歌、絵本などの教材集を作成します。それらの教材研究を計画的に進めておいてください。
- ・授業内容を再確認し、不明な点は次回の授業で質問したり調べるようにしてください。

《備考》

実習を受けるための資格条件を厳守し、積極的、意欲的に授業に参加すること。正当な理由のない欠席、遅刻、早退については厳重に注意する。実習内規及び要綱にしたがって実習参加の可否を決定する。その他、授業の妨害になることは厳重に対処する。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	幼稚園参加指導実習直前指導
第 2 週	幼稚園参加指導実習直前指導
第 3 週	幼稚園参加指導実習直前指導
第 4 週	幼稚園参加指導実習における自己評価と反省
第 5 週	幼稚園参加指導実習における自己評価と反省 参加指導実習園への礼状について
第 6 週	保育事例研究(1)
第 7 週	保育事例研究(2)
第 8 週	模擬保育のための指導計画の作成と教材研究
第 9 週	模擬保育のための指導計画の作成と教材研究
第 10 週	模擬保育の展開と反省・評価(1)
第 11 週	模擬保育の展開と反省・評価(2)
第 12 週	模擬保育の展開と反省・評価(3)
第 13 週	模擬保育の展開と反省・評価(4)
第 14 週	模擬保育の展開と反省・評価(5)
第 15 週	幼稚園参加指導実習の相対的評価と反省及びまとめ

《学科教育科目》

科目名	保育実習Ⅱ				
担当者名	徳永 満理・梶山 洋枝				
授業方法	実習	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	2年・I期分

《授業のねらい及び概要》

保育所の見学観察の実習で学んだ保育所の一日の流れ・子どもの姿・保育所の役割をさらに保育活動への参加を通して、保育所・保育士の役割について実践的に学ぶことを目的とする(実習期間:6月2週間)
 学内では、保育実習Ⅰの実践、反省を通して、さらに保育について具体的な理解を深める。(実技、指導案等の作成)

《授業の到達目標》

保育所見学参加実習の反省をふまえ、保育活動に参加したり実践することにより、さらに保育士の仕事が学べる。又保育活動の一部を分担したり、研究保育をすることによって保育の計画を作れるようになる。
 同じ保育所での実習は子どもの発達がみられるし、自分の成長も見てもらえる。

《テキスト》

『保育所保育指針』『保育所実習』(北大路書房)1年次購入済

《参考文献》

『子どもとつくる保育実践』『保育・福祉小六法』(みらい)
 適宜、講義時に紹介します。

《成績評価の方法》

現場評価(80%)、事前事後指導(20%)で評価する。

《授業時間外学習》

保育所見学観察実習の時のノート・プリントをよく読んでおくこと。
 実習を振り返り、反省と課題を書いてくる事。(実習生として・保育者として)
 子どもの発達・統合保育等を復習しておくこと。
 常に手遊び、絵本読み等を実践しておくこと。

《備考》

- 1.講義時は、いつも保育所での実習と考えて出席すること。服装、態度も実習に適したものであること。
- 2.欠席・遅刻はしないこと。やむを得ず欠席する場合は、必ず保育研究室に電話を入れ、後日補講を受けること。
- 3.掲示を見て行動すること。(ピロティと保育研究室横の両方)

《授業計画》

週	授 業 計 画
第1週	施設実習反省会 保育所参加指導実習実施願回収 個人票回収
第2週	保育所参加指導実習の意義と手続き 見学観察実習の自己反省一実習課題(実習Ⅰの成績)レポート
第3週	見学観察実習の反省と参加指導実習の心がまえ 私立は連休までに挨拶に行く(オリエンテーション)
第4週	保育所VTR 乳児保育(乳児の発達と保育) 統合保育
第5週	記録の書き方(実習ノート)Ⅰ 指導計画(レポート) 公立の実習先を順次発表(オリエンテーション)
第6週	記録の書き方(実習ノート)Ⅱ
第7週	指導計画、週、日案 細菌検査実施 細菌検査容器、書類の配付
第8週	研究保育の教材研究 実習保育所における実習計画に基づく
第9週	保育所実習直前指導 注意事項の確認 書類確認(実習費・領収書・評価表・出席表ほか)
第10週	保育所参加指導実習反省会(グループ) 小グループによる反省会・討議
第11週	保育所参加指導実習反省会(全体会) グループ討議の発表
第12週	保育所の歴史と課題(働く女性と保育所) 働く女性の現状
第13週	保育所の歴史と課題(子育て支援) 子どもをとりまく現状
第14週	望ましい保育者像(Ⅰ) 実習を通して理想とする保育者像を考える
第15週	望ましい保育者像(Ⅱ) 現場の保育士の声を聞く

《学科教育科目》

科目名	保育実習Ⅱ				
担当者名	徳永 満理・梶山 洋枝				
授業方法	実習	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期分

《授業のねらい及び概要》

保育所の見学観察の実習で学んだ保育所の一日の流れ・子どもの姿・保育所の役割をさらに保育活動への参加を通して、保育所・保育士の役割について実践的に学ぶことを目的とする(実習期間:6月2週間)
 学内では、保育実習Ⅰの実践、反省を通して、さらに保育について具体的な理解を深める。(実技、指導案等の作成)

《授業の到達目標》

保育所見学参加実習の反省をふまえ、保育活動に参加したり実践することにより、さらに保育士の仕事が学べる。又保育活動の一部を分担したり、研究保育をすることによって保育の計画を作れるようになる。
 同じ保育所での実習は子どもの発達がみられるし、自分の成長も見てもらえる。

《テキスト》

『保育所保育指針』『保育所実習』(北大路書房)1年次購入済

《参考文献》

『子どもとつくる保育実践』『保育・福祉小六法』(みらい)
 適宜、講義時に紹介します。

《成績評価の方法》

現場評価(80%)、事前事後指導(20%)で評価する。

《授業時間外学習》

保育所見学観察実習の時のノート・プリントをよく読んでおくこと。
 実習を振り返り、反省と課題を書いてくる事。(実習生として・保育者として)
 子どもの発達・統合保育等を復習しておくこと。
 常に手遊び、絵本読み等を実践しておくこと。

《備考》

- 1.講義時は、いつも保育所での実習と考えて出席すること。服装、態度も実習に適したものであること。
- 2.欠席・遅刻はしないこと。やむを得ず欠席する場合は、必ず保育研究室に電話を入れ、後日補講を受けること。
- 3.掲示を見て行動すること。(ピロティと保育研究室横の両方)

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	施設実習反省会 保育所参加指導実習実施願回収 個人票回収
第 2 週	保育所参加指導実習の意義と手続き 見学観察実習の自己反省一実習課題(実習Ⅰの成績)レポート
第 3 週	見学観察実習の反省と参加指導実習の心がまえ 私立は連休までに挨拶に行く(オリエンテーション)
第 4 週	保育所 VTR 乳児保育(乳児の発達と保育) 統合保育
第 5 週	記録の書き方(実習ノート)Ⅰ 指導計画(レポート) 公立の実習先を順次発表(オリエンテーション)
第 6 週	記録の書き方(実習ノート)Ⅱ
第 7 週	指導計画、週、日案 細菌検査実施 細菌検査容器、書類の配付
第 8 週	研究保育の教材研究 実習保育所における実習計画に基づく
第 9 週	保育所実習直前指導 注意事項の確認 書類確認(実習費・領収書・評価表・出席表ほか)
第 10 週	保育所参加指導実習反省会(グループ) 小グループによる反省会・討議
第 11 週	保育所参加指導実習反省会(全体会) グループ討議の発表
第 12 週	保育所の歴史と課題(働く女性と保育所) 働く女性の現状
第 13 週	保育所の歴史と課題(子育て支援) 子どもをとりまく現状
第 14 週	望ましい保育者像(Ⅰ) 実習を通して理想とする保育者像を考える
第 15 週	望ましい保育者像(Ⅱ) 現場の保育士の声を聞く

《学科教育科目》

科目名	教育心理学				
担当者名	松田 信樹				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	2年・I期

《授業のねらい及び概要》

人は生まれてから実にたくさんのことを身につけて発達していきます。それを可能にするのが、広い意味での教育です。人の人としての発達を支える教育という営みについて心理学の観点から考えていきます。

《授業の到達目標》

教育心理学の基礎知識を学ぶことにより、教育の対象となる幼児・児童・生徒の発達と学習のメカニズムについて理解できるようになること。

《テキスト》

テキストは使用しない。毎回プリントを配布する。

《参考文献》

- 『やさしい教育心理学〔改訂版〕』 鎌原雅彦・竹綱誠一郎（著） 有斐閣 2005
『教育心理学〔新版〕 ベーシック現代心理学6』 子安増生・田中俊也・南風原朝和・伊東裕司（著） 有斐閣 2003
『よくわかる教育心理学』 中澤潤（編） ミネルヴァ書房 2005

《成績評価の方法》

最終回に行う授業目標の到達度評価（テスト）100%

《授業時間外学習》

授業時間中に取り上げたテーマについて、参考文献などを読むことで理解を深めること。

《備考》

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	教育心理学＝発達と学習の心理学を学ぶ意義
第 2 週	人の発達を支える教育的環境
第 3 週	学習の基礎を理解する：学習のメカニズム その1
第 4 週	学習の基礎を理解する：学習のメカニズム その2
第 5 週	「知識を身につける」ということについて
第 6 週	学習を支える記憶のメカニズム
第 7 週	モチベーション（動機づけ）について
第 8 週	学びへのモチベーション：多様な動機に支えられた学びを目指して
第 9 週	モチベーションの低下について：無気力あるいは無力感の原因と対応を考える
第 10 週	教授法と教育評価：教え方と評価の仕方について
第 11 週	学級という集団を理解する：特に集団への同調について考える
第 12 週	学級という集団を理解する：特に権威への服従について考える
第 13 週	教師のメンタルヘルスについて：バーンアウトをめぐる
第 14 週	教育という営みについてふりかえる
第 15 週	授業目標の到達度評価（テスト）

《学科教育科目》

科目名	青年心理学				
担当者名	森田 義宏				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

子どもから大人への過渡期にある青年のこころを、自己意識の発達や自己形成という観点から理解し、青年の自立と成長への支援とは何かを考える。

《授業の到達目標》

青年期の特異性や意味を学び、自己意識や自我の発達と成長の過程を追っていく。青年期を前期、中期、後期に3区分し、それぞれの時期特有の心理を理解し、さらに現代青年を取り巻く文化や時代が青年の人間発達に及ぼす影響を考える。

《テキスト》

使用しない

《参考文献》

授業中適宜紹介する

《成績評価の方法》

平常点 30%、筆記試験 70%

《授業時間外学習》

青年や若者の文化・ことば・ファッション、事件などについての記事を新聞、雑誌、web 上から探し、レポートする。

《備考》

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	*オリエンテーション *青年心理学の目的と方法 *青年心理を考える枠組み *青年期の課題
第 2 週	青年心理学の研究法
第 3 週	I.青年期のはじまり *プレ思春期から青年期へ *自我の目覚めと自律への欲求
第 4 週	*揺れ動く青年の感情 *不安定と敏感
第 5 週	*性のめざめ *性と愛に向き合うということ
第 6 週	II 青年期の葛藤 *理想と現実の矛盾 *自己主張と反抗・異議申し立て
第 7 週	*思考と感情の特徴 *感情の論理
第 8 週	III.青年期後期の心理 自我同一性の確立と形成 その1
第 9 週	*自我同一性の確立と形成 その2 *本当の自分探しとモラトリアム
第 10 週	*将来を考える *生活設計の開始
第 11 週	*職業・キャリアを考える
第 12 週	*現代の青年の実像と社会問題 ニート、フリーター、引きこもり
第 13 週	*青年の人間関係 (仲間・家族)
第 14 週	*「大人になる」とは
第 15 週	まとめ

《学科教育科目》

科目名	教育制度論				
担当者名	笹田 哲男				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	2年・I期

《授業のねらい及び概要》

明治以降の日本教育制度史を、学校制度史を中心に学んだのち、現代日本の学校制度、教育行政制度等の課題について、検討を加えていく授業です。

《授業の到達目標》

1. 近代以降の日本の教育制度史についての知識を獲得する。
2. 現代日本の学校教育制度、教育行政制度などについての知識を獲得する。
3. 現代日本の学校教育制度、教育行政制度などの課題について考える力を獲得する。

《テキスト》

『要説 教育制度[三訂版]』森秀夫（学芸図書）

《参考文献》

その都度、紹介します。

《成績評価の方法》

授業時間内に実施する筆記試験の結果で100%評価します。

《授業時間外学習》

教科書の指定箇所を読んでおくこと。

《備考》

「子どもの学習権」、「国家の教育への関わり方」などについては、とくに時間をとって、皆さんとともに検討したいと考えています。積極的な受講を、期待しています。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	教育制度、公教育の歴史類型、学校制度について
第 2 週	日本教育制度史（1）明治期 VTR使用
第 3 週	日本教育制度史（2）大正期、昭和期 VTR使用
第 4 週	現代日本の教育制度（1）保育制度 VTR使用
第 5 週	現代日本の教育制度（2）初等教育制度 VTR使用
第 6 週	現代日本の教育制度（3）中等教育制度
第 7 週	現代日本の教育制度（4）高等教育制度
第 8 週	現代日本の教育制度（5）社会教育制度
第 9 週	現代日本の教育制度（6）その他（教員養成制度等） VTR使用
第10週	海外主要国の学校制度 VTR使用
第11週	教育制度と「教育法の体系」 VTR使用
第12週	教育行財政のしくみと教育法
第13週	学校、教職員と教育法（1）
第14週	学校、教職員と教育法（2）
第15週	まとめ

《学科教育科目》

科目名	教師論				
担当者名	藤井 恵美子				
授業方法	講義	単位・必選	2・必	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

- ・ 学生が目指す保育者像を明確にし、その実現に必要な学習過程を計画する。
- ・ 保育に関する知識を深め、1年生から積み重ねてきた理論や実習からの学びを通して、保育者としての資質の向上を図る。
- ・ 学生の人生経験を振り返らせ、その結果を今後の進路選択に活用する。
- ・ 模擬保育を行い、自らの望ましい保育者像を構想する。

《授業の到達目標》

- ・ 教職の意義と保育者の役割を理解することができる。
- ・ 教職（保育）に対する自らの適性を探求し、保育実践者としての意欲を高めることができる。

《テキスト》

改訂「保育者論」 民秋 言 編著 建帛社

《参考文献》

- 『幼稚園教育要領・保育所保育指針』
 『新しい時代の幼児教育』 小田豊・榎沢良彦 編 （有斐閣）
 『フレーベル全集第二巻・人の教育』 フレーベル （玉川大学出版部）
 『倉橋惣三「保育法」講義録』 菊池ふじの監修 （フレーベル館）
 『保育者の地平』 津守 真著 （ミネルヴァ書房）その他授業中に随時紹介する。

《成績評価の方法》

定期テスト50%、レポート30%、授業態度20%

《授業時間外学習》

- ・ 次回の授業範囲を予習しておいてください。特に、教科書をよく読んでおいてください。
- ・ 適宜課題を出しますので、その課題について深く考えたり、調べたりしてまとめてきてください。
- ・ 授業で学んだことを振り返り、ノートにまとめておいてください。

《備考》

- ・ 幼稚園・保育所などに関する情報（特に教職に関すること）を常に意識して、収集しておいてください。
- ・ 教科書は必ず持参してください。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	授業の進め方・評価方法などのガイダンス 現時点で考え、目指す保育者像
第 2 週	教職の意義 保育するということ
第 3 週	保育の歴史と教師像① 諸外国にみる保育
第 4 週	保育の歴史と教師像② 日本にみる保育
第 5 週	保育者の専門性① 幼稚園における保育者の役割
第 6 週	保育者の専門性② 保育者の実践活動
第 7 週	保育者の専門性③ 保育所における保育者の役割
第 8 週	保育者の専門性④ 保育士の実践活動
第 9 週	法と保育者① 保育者の職務
第 10 週	法と保育者② 保育者の研修
第 11 週	保育者への学習課題① 討議「保育者のイメージと自己認識」
第 12 週	保育者への学習課題② 討議「保育者の専門職性」
第 13 週	保育者への学習課題③ 討議「保育者の資質」
第 14 週	今、保育者に求められるもの
第 15 週	全体のまとめ

《学科教育科目》

科目名	保育内容・健康				
担当者名	米田 妙子				
授業方法	演習	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	2年・I期

《授業のねらい及び概要》

「健康」の領域は、日々の保育の大半を占め、子どもの生活そのものといえる。そのため、乳幼児期における心身の健康に関する内容を十分に理解し、指導のあり方を考えていきたい。

《授業の到達目標》

- ・領域「健康」に示された「ねらい」「内容」を理解し、健康指導のあり方を認識する。
- ・乳幼児の心身の発育・発達について、基礎的知識を身につける。
- ・子どもの健康をめぐる問題に目を向け、その支援の方法を探る。
- ・乳幼児の遊びの発達を知り、小型遊具を作製する。
- ・乳幼児の命を守るため、安全指導の重要性を知り、指導法を身につける。

《テキスト》

『保育内容・健康』近藤充夫編著（建帛社）
 『保育所保育指針』
 『幼稚園教育要領』

《参考文献》

必要に応じ、印刷物を配布する。

《成績評価の方法》

筆記試験（60%）・提出物（20%）・授業態度（20%）で評価する。

《授業時間外学習》

- ・教科書、資料等の指定箇所を読んでおくこと。
- ・子どもに関するニュース・記事、「健康」に関するニュース・記事等をノートに記録しておくこと。

《備考》

- ・授業中の私語、携帯電話、飲食は厳禁。
- ・提出物は期限厳守。
- ・製作用具は各自必ず用意すること。
- ・正当な理由のない欠席・遅刻・早退についてはチェックする。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	オリエンテーション ・講義の概要 ・授業のすすめ方 ・履修上の諸注意 ・「健康」の定義
第 2 週	領域「健康」の「ねらい」・「内容」について ・保育所保育指針 ・幼稚園教育要領
第 3 週	子どものからだと健康 ①体格と生理機能の発達
第 4 週	②運動能力の発達
第 5 週	③生活習慣の形成 食事・睡眠・排泄・着脱・清潔
第 6 週	子どもの心と健康 ①情緒の発達と運動 ②社会性の発達と運動
第 7 週	③パーソナリティの発達と運動 ④知的能力の発達と運動
第 8 週	子どもの健康をめぐる問題
第 9 週	食育について
第 10 週	乳幼児の遊びの発達と健康 ①いろいろな遊具の遊び（素材・大型遊具・小型遊具等）
第 11 週	②小型遊具作製
第 12 週	③小型遊具の完成および作品発表
第 13 週	安全の指導 ①安全教育のねらい ②安全の指導
第 14 週	③安全管理
第 15 週	学習の振り返り及び筆記試験

《学科教育科目》

科目名	保育内容・環境				
担当者名	谷内 繁子				
授業方法	演習	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	2年・I期

《授業のねらい及び概要》

保育における「環境」とは、日常的に用いられる自然環境だけでなく、ある事物が幼児の遊びや学びにどのような意味をもち、幼児がそれらを体験することにより、何に気づき経験していくのかという視点から、人とモノ、人と人とのつながりの観点での幅広い領域を意味する。そのなかで幼児が環境とどのようにかかわっているのか具体的な経験として蓄積されていくためには、どのような環境構成や援助が求められているのかなど、具体的に考えていく実践力を身につける。

《授業の到達目標》

- 保育所保育指針、幼稚園教育要領「環境」に示された「幼児教育（保育）の基本」「ねらい」等を理解する。
- 演習を通して、どのような環境構成や援助が求められているのか保育者の役割と援助を理解する。
- 身近な環境に積極的に触れ、自らの感性を磨くとともに、「環境構成のポイント」を把握する。

《テキスト》

『保育所保育指針解説書』文部科学省、フレーベル館、2008
 『幼稚園教育要領解説』文部科学省、フレーベル館、2008

《参考文献》

『演習保育内容環境』紫崎正行編著（建帛社）、2009
 『新子どもと環境』（理論編）奥井智久編著（三晃書房）、2008
 『身近な環境を生かすあそび』八並勝正著（チャイルド社）、1992

《成績評価の方法》

- 定期試験 60%
- 授業や演習への参加意欲と態度 20%
- レポート課題等への提出物 20%

《授業時間外学習》

- 予習の方法
 テキストの指定箇所を読んできてください。また、適宜課題を出すので、その課題をやってきてください。
- 復習の方法
 授業内容を再確認し、不明な点は質問するなり自分で調べるなりしてください。

《備考》

○授業に関する資料と演習課題は授業時に指示します。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	保育の基本と保育内容「環境」：環境をとおして行う保育、保育内容の構造と「領域」
第 2 週	子どもと環境のかかわり (1)：身近な環境の捉え方、身近な自然・生き物とのかかわり
第 3 週	子どもと環境のかかわり (2)：物とのかかわり、文字や記号とのかかわり、数量とのかかわり
第 4 週	子どもと環境のかかわり (3)：情報や施設とのかかわり、園内外行事とのかかわり
第 5 週	園庭の自然や遊具とのかかわり：多様なかかわりを保障、遊びが発展するような保育者の役割と援助 演習「子どもの遊びを援助するため、園児役、保護者役に分かれてロールプレイ」
第 6 週	室内の遊具・教材・設備とのかかわり：遊びやすい空間づくり、使いこなせる環境づくり
第 7 週	飼育・栽培・園外保育：飼育活動、栽培活動、園外保育 演習「子どもが育てやすいような栽培物（花・野菜等）を調べ、年間スケジュールを立案」
第 8 週	領域「環境」と指導計画：領域の考え方、生活と計画
第 9 週	領域「環境」と保育方法：一日の生活時間の構造、自発的活動時間と領域「環境」、設定及び保育者の意図が強い遊びや活動と生活のなかでの配慮
第 10 週	領域「環境」と保育の実際 (1)：身の回りの生活環境における配慮
第 11 週	領域「環境」と保育の実際 (2)：思考力の芽生え、好奇心・探究心をもつ
第 12 週	領域「環境」と保育の実際 (3)：道徳性をはぐくむ保育環境
第 13 週	乳幼児期の安全環境：防災教育の基本、心身の発達と安全能力の形成、安全能力を培う保育、安全環境
第 14 週	領域「環境」の変遷：幼稚園創設～戦時下の保育内容、戦後～今日の保育内容
第 15 週	まとめ：保育内容の総合性、魅力ある保育環境づくり、地域資源の活用 演習「自身の思い出深い環境から、その体験のもつ意味を探ってみる」

《学科教育科目》

科目名	保育内容・表現 I				
担当者名	井上 眞美子				
授業方法	演習	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	2年・I期

《授業のねらい及び概要》

身体と心の感性を育てる。

《授業の到達目標》

自分の身体を知ること。「動きの世界」「音の世界」から何かを感じて、身体の諸感覚を目覚めさせる。音楽と基本ステップの実技研修から、幼児期の年齢別にふさわしい指導方法を主体的に考えていく。

《テキスト》

『表現』 幼児音楽①② 小林美実監修（保育出版社）

《参考文献》

『手あそび 指あそび』 吉本澄子著（玉川大学出版部）
『ドラマによる表現教育』 ブライアン ウェイ著（玉川出版部）

《成績評価の方法》

毎回の授業毎の評価（20%）、実技テスト（80%）の割合で評価する。授業回数の1/3を超える欠席者は成績評価の対象とならない。

《授業時間外学習》

- ・テキストの指定箇所を読んでおくこと。
- ・ステップに関する専門用語の意味等を理解し、ノートに整理しておくこと。
- ・毎回の実技についてのイメージトレーニングを行うよう指示する。

《備考》

- ・自分がイメージしたことが身体で表現できるように日常生活で五感を研ぎ澄ましておく。
- ・服装は、運動に適したものとする（平服は不可）。
- ・授業中の携帯電話は使用厳禁とする。
- ・リズムシューズを使用する。集団あそびは屋外のシューズを使用する。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	表現についての概要の説明 手あそび
第 2 週	身体の諸感覚を感じるあそび（基本運動と動きのリズム） 各国の幼児のフォークダンスを体得する
第 3 週	基本ステップを中心に、クリエイティブムーブメント。世界のフォークダンス
第 4 週	基本ステップを中心に、クリエイティブムーブメント。世界のフォークダンス
第 5 週	基本ステップを中心に、クリエイティブムーブメント。世界のフォークダンス
第 6 週	模倣あそび、幼児体操
第 7 週	動きの質のテーマ（緊張と解緊）
第 8 週	動きの質のテーマ（緊張と解緊）
第 9 週	ことばとリズムあそび・わらべうたあそび
第 10 週	身近な道具のリズムあそび
第 11 週	身近な道具のリズムあそび
第 12 週	野外における集団あそび（わらべうたあそび・ゲーム）
第 13 週	関係のテーマ（仲間と共同して作品を創る）
第 14 週	関係のテーマ（仲間と共同して作品を創る）
第 15 週	作品発表会

《学科教育科目》

科目名	養護内容				
担当者名	藤本 政則				
授業方法	演習	単位・必選	1・選	開講年次・開講期	2年・I期

《授業のねらい及び概要》

乳児院や児童養護施設等の入所型、生活型児童福祉施設における生活やそこで生活する子どもたちについて正しく理解する。またそのような子どもたちへのケアのあり方についても学び、援助者としての保育士の役割についても理解する。

《授業の到達目標》

児童養護施設を中心とした子どもたちの生活と援助の実際について理解すると共に、児童福祉施設の住宅支援など新たな機能について視野を広める。

《テキスト》

なし。レジュメ等の資料を適宜配布する。

《参考文献》

『改訂3版・保育士養成講座 第8巻 養護原理』新・保育士養成講座編纂委員会編（全国協議会社会福祉 2007）

《成績評価の方法》

下の2方法にて成績評価を行う。尚、配点の割合は「1」が4割、「2」が6割とする。

1. 出席状況、授業態度、授業レポート、保育士資格取得に対する意欲等の評価。
2. 筆記試験（単位取得に必要な知識等を評価。）

《授業時間外学習》

- ・毎回の授業前に、各テーマに応じた資料や文献を読む等事前学習に取り組むこと。
- ・授業後、授業内容を振り返り、興味関心を抱いたことや疑問に感じたことについて事後学習を行うこと。

《備考》

- ・各講義の開始時に欠席の確認を行うため、始業時間を厳守すること。
- ・授業中の飲食、私語、居眠り、携帯電話の使用は厳禁とする。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	養護における子ども観
第 2 週	養護における子ども観－「子どもの権利」をどう考えるか－
第 3 週	児童と養護－社会的養護を必要とする子どもたち－
第 4 週	施設における児童養護－施設養護の特質－
第 5 週	施設における児童養護－施設養護の基本原理 1－
第 6 週	施設における児童養護－施設養護の基本原理 2－
第 7 週	施設における児童養護－施設で生活する子どもたち①－
第 8 週	施設における児童養護－施設で生活する子どもたち②－
第 9 週	施設養護の実践と方法－施設の生活とケアワーク①
第 10 週	施設養護の実践と方法－施設の生活とケアワーク②
第 11 週	施設養護の実践と方法－施設の生活とケアワーク③
第 12 週	施設養護の実践と方法－施設の生活とケアワーク④
第 13 週	施設養護の実践と方法－施設の生活とケアワーク⑤
第 14 週	施設養護の実践と方法－施設の生活とケアワーク⑥
第 15 週	学習のまとめと筆記試験

《学科教育科目》

科目名	乳児保育Ⅱ				
担当者名	梶山 洋枝				
授業方法	演習	単位・必選	1・選	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

- ①乳児保育Ⅰの講義で学んだ理論・知識・技術を基礎に保育所・乳児院における保育を実践的に学ぶ。
 ②保育所・乳児院における保育内容を学びつつ、授業の中で実践する。
 あそびの実践、カード・リース・年賀状・マップ・おたより他、必要に応じ作成する。

《授業の到達目標》

0、1、2歳児の発達を学び、子どもの発達の見通しを持つことができるようになり、こどもに寄り添うことができるようになる。又、保育を実践的に学ぶことにより、保育内容の質を高められる。

《テキスト》

『乳児の保育新時代』（ひとなる書房） 1年時購入
 必要に応じプリント配布

《参考文献》

『保育所保育指針』
 『保育小六法』

《成績評価の方法》

課題提出（作品・レポート）（90%）、授業態度（10%）で評価する。

《授業時間外学習》

- ・1年時の乳児保育Ⅰの復習をしてくること。
 保育の意義・歴史・発達・遊び・指導計画等
- ・次回の授業内容を予習してくること
- ・授業に必要な保育材料を忘れず持参すること

《備考》

欠席、遅刻、授業態度等評価の対象とする。
 手づくりおもちゃ作成のための必要の材料の準備（事前に連絡）

《授業計画》

週	授 業 計 画
第1週	講義の概要 乳児保育の意義と現状
第2週	0、1、2歳児の発達と保育 発達の特徴と保育者のかかわり
第3週	0、1、2歳児の生活 基本的な生活習慣の自立の援助
第4週	0、1、2歳児の遊びと実践 保育者の関わり、手あそび・目あそび・足あそび
第5週	保育課程と指導計画 乳児の日華と保育
第6週	手づくりおもちゃの作成（1） ぬいぐるみ
第7週	手づくりおもちゃの作成（2）と作品発表 ぬいぐるみ
第8週	行事と保育（1） クリスマスリース作成
第9週	行事と保育（2） クリスマスカード作成
第10週	行事と保育（3） クリスマスカード作成
第11週	行事と保育（4） 年賀状作り
第12週	作品発表と動くおもちゃ作り いろいろなコマ
第13週	保育者の専門性と保育者の資質 保育者の理想像
第14週	家庭・他機関・地域との連携 保護者への援助、おたより作成
第15週	職員の協力体制・まとめ

《学科教育科目》

科目名	教育相談				
担当者名	大久保 恵				
授業方法	講義	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

1. 教育相談、カウンセリングの理論、基礎知識を身につける。
2. 描画など心理検査などを体験して自己理解を深める。
3. 教育現場での実際を通して、実践的な力を養う。

《授業の到達目標》

教育相談の基礎的な考え方を習得し、子どもの問題行動への理解を深め、その対応法を学んでいく。

《テキスト》

「新・学校教育相談心理学」石川正一郎・松尾浩一郎編著（北大路書房）

《参考文献》

「教師のための教育相談の基礎」久芳美恵子著（三省堂）

《成績評価の方法》

平常点（20%）、提出物（20%）、テスト（60%）

※授業欠席回数が授業実施回数の3分の1以上になった者には単位を与えることができません。

《授業時間外学習》

- ・教科書の指定箇所を読んでおくこと。
- ・授業中に配布するプリントを整理し、よく読んでおくこと。
- ・実習などで出会った子どもたちをよく観察し、授業内容に照らし合わせて、理解と対応を考えること。

《備考》

講義の開始時に出席を確認します。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	教育相談と自己理解
第 2 週	教育相談の実際 1
第 3 週	教育相談の実際 2
第 4 週	パーソナリティとその理解 1
第 5 週	パーソナリティとその理解 2
第 6 週	発達と教育相談
第 7 週	発達障害と教育相談
第 8 週	カウンセリングとは
第 9 週	カウンセリング体験
第 10 週	主な心理療法と心理検査
第 11 週	描画体験とその理解
第 12 週	関係機関との連携・協働
第 13 週	ケーススタディ（幼児期）
第 14 週	ケーススタディ（児童期・思春期）
第 15 週	学習のまとめ

《学科教育科目》

科目名	総合演習				
担当者名	中川 智章				
授業方法	演習	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

特殊問題を取り上げ、そこでの「人権」を考える。
事例演習を行なう。

《授業の到達目標》

保育士としてまた、人間として最低限、心得ておくべき「人権意識」を養う。

《テキスト》

第一講で示す

《参考文献》

講義中に提示する。

《成績評価の方法》

レポート（60%）と研究発表（40%）で評価する。

《授業時間外学習》

- (1) 予め教科書の○頁から○頁までを読んでおくこと。
- (2) 上記(1)の講義をした後、プリントに難解であったと思われる事項等を記載して提出する。

《備考》

- (1) 講義中に私語をしないこと。
- (2) 講義中、携帯電話を操作しないこと。
- (3) 小型の六法全書と教科書を毎時間持参すること。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	人権とは何か
第 2 週	明治維新と人権状況
第 3 週	上からの改革
第 4 週	文明開化と自然法思想
第 5 週	明治憲法と臣民の権利
第 6 週	人権保障制度の欠落
第 7 週	人権と大正デモクラシーの限界
第 8 週	労働運動と人権
第 9 週	農民の困窮状況
第 10 週	臣民の権利
第 11 週	天皇制ファシズムへの道
第 12 週	人権と終戦
第 13 週	人権抑圧
第 14 週	現代における人権の危機
第 15 週	まとめ

《学科教育科目》

科目名	総合演習				
担当者名	安井 重雄				
授業方法	演習	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

絵本は保育のための教材として重要である。しかし、絵本はしっかりと「読む」ことができているだろうか。絵本は絵と文で出来ている。絵と文は同じ作者の場合もあるし、異なる場合もある。絵にも文にも作者が伝えたい、表現したいと考えていることがある。この授業では、それらの絵本に表現されていることを読み取りたい。それによって今までより深く絵本を理解することを目指す。

《授業の到達目標》

・絵本全体の場面構成を把握し、ストーリーと展開を説明できる。

《テキスト》

それぞれの学生が選んだ絵本がテキストとなる。選んだ絵本について調べてまとめた資料を教員がコピーして配布する。

《参考文献》

特になし。

《成績評価の方法》

出席は10回以上でなければ単位は与えない。発表内容、発表資料、授業内での発言などの平常点（50%）、期末レポート（50%）によって評価する。

《授業時間外学習》

次回授業で扱う絵本は前もって指示するので、その絵本を読み、理解しておくこと。

《備考》

大人になると、絵本から離れる人が多く、絵本は子どものものと考えがちだが、この授業を通して、絵本は大人も読めるものであること、絵本の持っている豊かな可能性に気づいてほしい。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	授業の進め方、発表資料の作り方の説明。
第 2 週	教員が選んだ絵本を読み、絵本の内容について考える。
第 3 週	絵本の内容と、作者について考える。
第 4 週	グループ発表。
第 5 週	グループ発表。
第 6 週	グループ発表。
第 7 週	グループ発表。
第 8 週	グループ発表。
第 9 週	グループ発表。
第 10 週	グループ発表。
第 11 週	グループ発表。
第 12 週	グループ発表。
第 13 週	グループ発表。
第 14 週	グループ発表。
第 15 週	レポートの提出と授業のまとめ。

《学科教育科目》

科目名	総合演習				
担当者名	小泉 毅				
授業方法	演習	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

授業は英語のみで、TPR(Total Physical Response)の理論にもとづいて行う。このTPRは母国語である日本語をかいさずに、体の動きを通して英語を教える方法である。近い将来幼児教育指導者になられる保育科の学生のみなさんがぜひとも知っておいていただく必要のある指導法である。

具体的には、歌、物語、会話を通して学んでいく。

《授業の到達目標》

- 1.この授業を通して、保育科の学生のみなさんに英語を好きにさせたい。英語を学んだら、こんなに楽しいよ！夢がもてるよ！という授業をめざしたい。
- 2.この楽しさ、夢を保育園、幼稚園で生徒に伝えていただく指導者になっていただきたい。
- 3.英語を通して異文化理解を学ぶ。

《テキスト》

- 1.「Enjoy English」 小泉 毅編（長崎出版）
- 2.クリアーファイル(A4)を購入。
このファイルに配布されたプリントを保管していただきたい。

《参考文献》

- 1.「Let's sing together」 阿部 恵子著（APRICOT）
2. Wee sing series
3. Addison-wesley storybooks series
これらは大学図書館に所蔵されています。

《成績評価の方法》

幼児教育指導者として、英語、異文化理解を教えていただきたいので、プレゼンテーション中心の授業にしていきたい。それで評価はつぎのようにしたい。

- 1)発表-40%,2)宿題-30%,3)小テスト-30%. 授業欠席回数が実施回数の3分の1以上欠席した者には単位を与えない。

《授業時間外学習》

毎回宿題をだします。音読をして、ていねいにノートに書いて、暗唱までしてください。また図書館の参考図書を使用する宿題もだします。図書館をよく利用してください。

《備考》

兵庫大学短期大学部保育科は、素晴らしい先輩が幼児教育現場の指導者として日本全国で活躍されている伝統ある素晴らしい学科である。

最近のグローバル経済化の世界において、コミュニケーションとしての英語の必要性が、世界中で求められている。この流れから、日本においても小学校において総合科目の中で英語を教えている現状から、「教科」として英語を教える方向になりつつある。そこで、多くの幼児教育現場においても、英語、異文化理解教育がすでに行われている。

この授業を通して、英語、異文化理解教育を教えられる新たな保育指導者になっていただきたい。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	1.授業の説明、評価方法を詳細に説明。 2.TPR について説明 3.席順の決定
第 2 週	テーマ：あいさつ 歌：Hello song 会話：Enjoy English ,P.30,Part.8. フォニックス：フォニックス アルファベット 物語：三匹の子ぶた、2～3 ページ。
第 3 週	テーマ：アルファベット 歌：ABC Steps 会話：Enjoy English ,P.30,Part.9. フォニックス：フォニックス アルファベット 物語：三匹の子ぶた、4～5 ページ。
第 4 週	テーマ：かず 歌：Ten Little Witches 会話：Enjoy English ,P.32,Part.10. フォニックス：子音 物語：三匹の子ぶた、6～7 ページ。
第 5 週	テーマ：いろ 歌：Colors 会話：Enjoy English ,P.32,Part.11. フォニックス：子音 物語：三匹の子ぶた、8～9 ページ。
第 6 週	テーマ：動物 歌：Old MacDonald had a farm 会話：Enjoy English ,P.34,Part.12. フォニックス：母音 物語：三匹の子ぶた、10～11 ページ。
第 7 週	テーマ：家族 歌：I'm a Little Teapot. 会話：Enjoy English ,P.34,Part.13. フォニックス：母音 物語：三匹の子ぶた、12～13 ページ。
第 8 週	テーマ：たべもの 歌：Ten Fat Sausages 会話：Enjoy English ,P.36,Part.14. フォニックス：フォニックスを使って読み方練習。 物語：三匹の子ぶた、14～15 ページ。
第 9 週	テーマ：体の部分 歌：Head, Shouders, Knees & Toes. 会話：Enjoy English ,P.36,Part.15. フォニックス：フォニックスを使って読み方練習。 物語：三匹の子ぶた、2～9 ページ。
第 10 週	テーマ：乗物 歌：The Bus Song 会話：Enjoy English ,P.38,Part.16 フォニックス：フォニックスを使って読み方練習。 物語：三匹の子ぶた、10～15 ページ。
第 11 週	テーマ：季節 歌：Eency Weency Spider 会話：Enjoy English ,P.38,Part.17. フォニックス：フォニックスを使って読み方練習。 物語：三匹の子ぶた、2～9 ページ (暗唱)
第 12 週	テーマ：形 歌：Shapes 会話：Enjoy English ,P.40,Part.18. フォニックス：Silent E 物語：三匹の子ぶた、10～15 ページ (暗唱)
第 13 週	プレゼンテーションの打合せと計画
第 14 週	プレゼンテーション (予行)
第 15 週	プレゼンテーション

《学科教育科目》

科目名	総合演習				
担当者名	三浦 摩美				
授業方法	演習	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

人間が成長する過程で切り離すことのできない児童文化について、これまでの児童文化および現在の児童文化について調べ、保育活動との関連で考察できるようにする。授業の流れとしては、まず、われわれにとって、そして子どもにとって文化とはどのような意義や役割があるかについて考察し、過去から現在に至る児童文化がどのように伝承され、創造されてきたのかについて理解する。また、教育財としての機能をもつ児童文化を保育のなかに活かすための工夫についても考察する。

《授業の到達目標》

- ・文化・児童文化の機能や意義について理解する。
- ・児童文化の人間形成に果たす役割について考察できるようにする。
- ・児童文化と保育活動を関連付けることができ、よりよい文化財の伝承や創造ができるように工夫する。

《テキスト》

適宜資料を配布する。

《参考文献》

授業中に紹介する。

《成績評価の方法》

平常の出席、発表や平常のレポート等の提出物（60%）、および期末のレポート（40%）で評価する。

《授業時間外学習》

- ・各自およびグループ学習に必要な参考図書については図書館で調べ、参考資料として十分活用できるようそのつどアドバイスを行うので、参考資料を熟読し発表用に要点をまとめるようにすること。
- ・実際に作品を作成し、それをを用いて実技してもらうことがあるので、児童文化財を構成する素材の性質や構造、遊び方等について一定の理解をもって制作できるようにすることが望ましい。
- ・一言で児童文化財といっても、その種類や用い方は多様であるので、日ごろから意識的に児童文化に目を向け、さまざまな児童文化に触れる機会を持つように心がけること。
- ・保育のなかの児童文化の意義について考察し、レポートにまとめることができるよう、毎回の授業内容と子どもの育ちや保育のなかでの活用や工夫について関連づけながら取り組むことができるようにすること。

《備考》

各テーマに応じた資料の収集と発表、そして、発表での意見交換では、意欲的・積極的な取りみを評価します。それぞれにつき、さまざまな視点での意見交換をもって進めることができるようにしたい。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	オリエンテーション（授業の進め方）
第 2 週	文化および児童文化とは何か
第 3 週	児童文化についてのグループ発表（課題発表と意見交換）
第 4 週	童話・紙芝居・絵本など、児童文学の歴史について
第 5 週	さまざまな児童文学について調べる（課題発表と意見交換）
第 6 週	わらべうたや童謡の歴史について
第 7 週	さまざまなわらべうたや童謡について調べる（課題発表と意見交換）
第 8 週	おもちゃの歴史について
第 9 週	さまざまなおもちゃについて調べる（課題発表と意見交換）
第 10 週	さまざまな遊びの歴史について
第 11 週	さまざまなゲームや遊びについて調べる（課題発表と意見交換）
第 12 週	今日の児童施設のなかの児童文化の機能と役割について
第 13 週	児童文化作品の制作と講評
第 14 週	児童文化作品の制作と講評
第 15 週	まとめ—子どもの育ちや保育活動のなかの児童文化の意義について

《学科教育科目》

科目名	総合演習				
担当者名	佐竹 邦子				
授業方法	演習	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

社会の今日的課題、特にコンピュータやネットワークが関わる問題に焦点を当てます。問題の整理、調査、まとめ、発表といった流れで授業を行います。

子どもたちをとりまく社会は、急激に変化しています。特に情報技術の発達で社会を大きく変えています。これらの変化に改めて気づき、そこに発生している問題に焦点を当て、現状の問題点を解決する方法を考えましょう。それにより、今後、さらに社会が変化していく中で、どのような問題点が出るか、どのように解決すればよいかに気づく力を養ってほしいと考えています。

《授業の到達目標》

今後社会で働く一員となるために必要な、現代社会の問題に気づき、分析し、解決する能力が身につく。

《テキスト》

プリント等配布

《参考文献》

授業の中で随時示す。

《成績評価の方法》

- ・出席点 (30%)
- ・平常点・レポート (70%)

ただし、欠席回数が全授業回数の1/3を超えた場合、欠格となる。

《授業時間外学習》

- ・前回の授業内容の復習をしておくこと。

《備考》

- ・この授業では自ら考える姿勢が大切です。
- ・積極的に取り組んで下さい。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	オリエンテーション：授業の概要説明
第 2 週	ネットワーク社会における今日的課題の認識：課題発見の方法
第 3 週	課題発見：各自、テーマの決定
第 4 週	グループ討論（1）：各自のテーマを発表
第 5 週	グループ討論（2）：各自のテーマに関する討論
第 6 週	グループ討論（3）：各自のテーマのブラッシュアップ
第 7 週	レポート作成（1）：テーマに基づいたレポート作成開始
第 8 週	レポート作成（2）：テーマに基づいたレポート作成
第 9 週	レポート作成（3）：テーマに基づいたレポート作成
第 10 週	中間発表：各自発表、中間提出
第 11 週	レポート作成（4）：レポートのブラッシュアップ
第 12 週	レポート作成（5）：レポートのブラッシュアップ
第 13 週	発表（1）：各自発表
第 14 週	発表（2）：各自発表
第 15 週	発表（3）、レポート提出：各自発表、最終提出

《学科教育科目》

科目名	総合演習				
担当者名	松田 信樹				
授業方法	演習	単位・必選	2・選	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期

《授業のねらい及び概要》

グループで討論をしたり、ロール・プレイをしたり、心理検査を受けたり、文献を読んだり、様々な活動を通して人間関係や自己に関連する心理学的トピックスについて理解を深めていく。

《授業の到達目標》

複雑な人間関係について、そして人間関係の構成要素である「わたし」という不思議な存在について、心理学の観点から見ようとすればどうなるのかを、考えられるようになること。

《テキスト》

使用しない。授業中にプリントを配布する。

《参考文献》

『グラフィック社会心理学』 池上知子・遠藤由美 1998 サイエンス社
『性格の見分け方』 榎本博明 1996 創元社
『ステレオタイプの社会心理学 - 偏見の解消に向けて』 上瀬由美子 2002 サイエンス社

《成績評価の方法》

授業への積極的参加度 50%、提出課題 50%の割合で評価する。

《授業時間外学習》

参考文献を読むなどして、授業で扱ったテーマについて各自で理解を深めよう。

《備考》

積極的に授業に参加し、自分の頭を使って考え、そして自分の意見を発表できる学生の受講を待っています。

《授業計画》

週	授 業 計 画
第 1 週	オリエンテーション：授業の進め方などについての説明
第 2 週	グループ討論とロール・プレイを通してリーダーシップについて考える その1
第 3 週	グループ討論とロール・プレイを通してリーダーシップについて考える その2
第 4 週	グループ討論を通して感受性について考える
第 5 週	グループ討論とロール・プレイを通して俗に言う「モンスターペアレント」への対応を考える
第 6 週	文献を読んで、俗に言う「モンスターペアレント」の問題について理解を深める
第 7 週	心理検査を受けたり文献を読んだりして、社交性と自己開示について学ぶ
第 8 週	エゴグラムを通して、自分自身を知る手がかりを得る その1
第 9 週	エゴグラムを通して、自分自身を知る手がかりを得る その2 他人から見た自分と、自分で見た自分は同じだろうか？
第10週	「ポジティブ」ということについて考える
第11週	文献を読んで人の魅力について考える その1 個人の性格という観点から
第12週	文献を読んで人の魅力について考える その2 集団の心理という観点から
第13週	文献を読んで対人認知のゆがみについて考える：ステレオタイプとは何かを偏見・差別との異同から学ぶ
第14週	なぜ人は血液型性格判断を信じてしまうのか、ステレオタイプの観点から考える
第15週	ステレオタイプ・偏見・差別の解消に向けて私たちに何ができるのかを考える